

設 問 項 目	大学名／調査館	1. 貴館が考える「ラーニング・コモンズ(LC)」の目標やポリシー、考え方等	2. 貴館が整備するLCの設置目的又はミッション等	3. 貴館が整備するLCの名称(愛称、仮称等)	4. 貴館が整備したLCの開設年月	8. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：名称	9. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：どのような学習が行われることを想定してデザインしたか	10. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： * 設置場所： * 図書館内外の別： * 入館ゲート内外の別：	11. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：面積	12. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：想定した学習を実現するために施設(建築・設備)の面で工夫点、設計上の特徴
1	北海道大学 本館	利用者（特に学生）へ柔軟かつ自由度の高い学習空間を提供し、学習支援と活発なコミュニケーションを図る。		なし	2011年11月	オープンエリア	テーブル・椅子を自由に配置し、ホワイトボードやパソコンを利用して、小規模グループでディスカッションしながら学習できることを想定	*設置場所： 閲覧室内 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	1,117㎡	*移動可能なテーブルを用意して、人数によって自由にテーブルを組み合わせることが出来るよう工夫した。
						リテラシールーム	情報リテラシー講習会等学内の講習会を開催することを想定。	*設置場所： 閲覧室（オープンエリア）内 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	73㎡	*学生用端末26台を設置。PCを使った講習会向けにデザインされている。 *扉を閉じたクローズな講習会が可能。講習会を実施しない時間帯には、学生にPCを開放している。
						メディアコート	学習の合間に飲食ができ、くつろげる広い空間としてデザインされている。	*設置場所： 既存棟書庫跡地 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	1,540㎡	*くつろぎ空間としてベンチを設置している。 *すべての壁にピクチャーレールを設置し展示可能としている。
2	東北大学 本館	大学図書館内におけるLCは、学生の主体的な学習を支援するための①「施設・設備」のみならず、②「人的サポート」、③「コンテンツ」、④「大学教育（学生・教員・組織等）との連携」の4輪が動いて初めて機能し始め、そして発展するものと考える。	予算要求段階でのLCの整備目的： 図書館の蔵書や電子的な学術情報資源・ツールを活用し、グループで議論しながら主体的に学習できる場と、学術情報資源の利用や論文作成の指導、IT技術に関する人的サポートを提供する。	なし	2012年11月	短時間PCワークエリア	インターネット、情報検索	*設置場所： 1Fメインフロア *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	約150㎡	*約1,000㎡のワンフロアを活かし、特にエリア毎の仕切りを設けていない。 *エリアの区別は、座席（椅子）の色で分けている。（短時間PCワークエリア：緑、長時間PCワークエリア：赤、グループボックスエリア：黄緑、フレキシブルワークエリア：橙）
						長時間PCワークエリア	レポート作成、DVD視聴、複数でのPC利用	*設置場所： 1Fメインフロア *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	約250㎡	*六角形のキャレルPCデスクを採用、複数人で使えるように広めのデスクとなっている。
						グループボックスエリア	ディスカッション、ディベート、グループ学習	*設置場所： 1Fメインフロア *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	約100㎡	*ファミレスタイプの座席で、3方をパーティションで囲ったボックス席を採用。 *各ボックスは4名～6名で使用できる。
						フレキシブルワークエリア	グループ学習、イベント（授業、研修、講演会、自主ゼミ）	*設置場所： 1Fメインフロア *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	約200㎡	*アクティブラーニング用に椅子もテーブルも自由な稼働が可能のように、軽いキャスター付を採用。 *イベントなどで音量が大きくなっても大丈夫ように、メインフロアの一番奥に配置。 *「見る」、「見られる」という開放性を重視。
3	筑波大学 中央図書館 本館	*学生の自発的な学習活動を効果的にサポートする機能（コンテンツ、コンピュータ設備、人的サポート）を有した学習環境の提供。 *ラーニング・コモンズの効果的な運用による学習図書館の機能の拡充。	1の目標を実現するため、以下のような学習スペースを提供 *学生たちが気軽に集い、学び、教え合う学びの空間 *多様な学習スタイルに応じて姿を変える万華鏡空間 *学生同士の交流や諸活動の「見える化」により知的好奇心を刺激して、学びの相乗効果を生み出す空間	中央図書館 ラーニング・スクエア	2011年9月	スタディサポートエリア	図書館スタッフ（メインカウンター、レファレンスデスク）、図書館ボランティア（ボランティアカウンター）、ラーニング・アドバイザー（学生サポートデスク）がそれぞれの特長を活かした人的なサポートを提供するゾーンとしてデザインした。	*設置場所： 中央図書館本館2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内		*既存の構造・配置を生かしたレイアウトとした。
						クリエイティブエリア	全学計算機や個人学習スペースを中心とした、学習による創造を促進する空間としてデザインした。	*設置場所： 中央図書館本館2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内		*既存の構造・配置を生かしたレイアウトとした。
						コラボエリア	グループで自由にディスカッションや共同学習を行える設備を備えた空間としてデザインした。	*設置場所： 中央図書館本館2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内		*既存の構造・配置を生かしたレイアウトとした。
						プレゼンテーションエリア	学習・研究成果や展示を多くの人の目に触れさせ、異分野の交流や「気づき」を促進するための空間としてデザインした。	*設置場所： 中央図書館本館2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内		*既存の構造・配置を生かしたレイアウトとした。
4	千葉大学 アカデミック リンク	知識基盤社会を生き、生涯学び続けるための基礎的な力を備えた「考える学生」の創造をめざす「アカデミック・リンク」のコンセプトを実現する場。	学修とコンテンツの近接によるアクティブ・ラーニングの推進	アクティブ・ラーニング・スペース	2012年3月	プレゼンテーション・スペース	セミナー、公開授業など	*設置場所： 1階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 外	80㎡	*外部と一体化できる開放的な集合スペース
						コミュニケーション・エリア	グループで話をしながら進めるアクティブ・ラーニング	*設置場所： 2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	926㎡	*仕切りのない開放的な空間で、自由に机やホワイトボードを使ってグループ学習を行う。
						グループワーク・エリア	パソコンを使って1人またはグループで進めるアクティブ・ラーニング	*設置場所： 3階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	969㎡	*PCを使っでのアクティブ・ラーニングを可能にする
						グループ学習室・研究個室エリア	グループによる討議やプレゼンテーションなどを行うアクティブ・ラーニング	*設置場所： 4階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	945㎡	*ガラスで囲った空間にして透明性を確保した。

設 問 項 目	大学名／調査館	1. 貴館が考える「ラーニング・コモンズ(LC)」の目標やポリシー、考え方等	2. 貴館が整備するLCの設置目的又はミッション等	3. 貴館が整備するLCの名称(愛称、仮称等)	4. 貴館が整備したLCの開設年月	8. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：名称	9. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：どのような学習が行われることを想定してデザインしたか	10. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： * 設置場所： * 図書館内外の別： * 入館ゲート内外の別：	11. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：面積	12. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：想定した学習を実現するために施設(建築・設備)の面で工夫点、設計上の特徴
5	新潟大学 中央図書館	学生の自主自立的な学習活動を支援するための「 学びの場 」「 創造の場 」「 発想の場 」としての役割を果たすこと	学生の共同的・自主的な学習のための快適かつ機能的な環境を提供し、ネットワークを活用した情報の収集・加工・発信のための設備や人的支援を提供する。	ラーニング・コモンズ	2013年4月	ワーキングエリア	図書館資料やパソコンを使用し討論を行いながらのグループ学習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	1,791㎡	*LC全体として 可視性・可動性のすぐれた明るく開放的なオープンスペース として整備した。 *可動机やホワイトボードを組み合わせた学習空間 *無線LAN環境 *学習形態にあわせたグループ学習室やプレゼンエリアなど多彩な学習空間
						プレゼンエリア	プレゼンテーションの発表や練習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	50㎡	*パワーポイント等の映像を投影するために白い壁面をスクリーンとして利用している。 *「見る」「見られる」緊張感を持ってプレゼンの発表等が行えるようにオープンスペースに配置した。
						外国語学習支援スペース (FL(エルエル)-SALC(サルク))	外国語の図書や視聴覚資料の利用、外国語の会話練習や発音練習、留学生とのチャット等、様々な形の外国語学習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	400㎡ (プレゼンエリア・少人数ブースを含む)	* 会話練習や発音練習のためのスピーキングブースを設置した。
						少人数ブース	4～5人程度でのグループ学習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	20㎡	*グループで気軽に利用できるようにファミレスのようなボックス型の座席を設置した。
						ICT講義室	情報リテラシー教育等の授業や図書館ガイダンスでの利用。授業やガイダンスによる利用のない時間はパソコンを使った個人学習での利用	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	122㎡	*60台の教育用パソコンを教室形式に配置した。
						メディアラボ	大型プリンタでの研究発表用のポスターの印刷、画像編集用PCやスキャナを使用した教材作成等	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	50㎡	*ポスター印刷用の大型プリンタ、画像編集用ソフトが使用できるパソコンやスキャナの設置。
						グループ学習室	3～20名程度のグループ学習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	72㎡	*6～8名用の個室を5室設置。 * 大部屋としても利用できるように一部の壁を可動式にした。
6	お茶の水女子大学	* 本学のリーダーシップ教育のキーワード “Migakazuba” は、Respect for others (心遣い) /Intelligence (知性) /Confidence (しなやかさ) の3つの要素から構成される。 * これらリーダーに必要な力は、1人で学ぶことだけではなく、他者と共にあることで育まれるという教育理念の下、「 共に学び共に成長する場 」として、ラーニング・コモンズは設置・運営されている。	学内各部署と連携して、当時直面していた大学全体の教育改革に資するため、図書館内に新しい教育にふさわしい場を学生に提供することを目的としていた。また、学内の他部署に図書館の改革を象徴する施設という意識を植え付けた。	なし	*2007年4月(LC)、 *2007年11月(ラウンジリニューアル)、 *2007年12月(キャリアカフェ)、 *2008年2月(キャリアカフェ、ラウンジの内装工事完了)	ラーニング・コモンズ	設置されたパソコンにより、インターネットを利用しながら、各種データベース、電子ジャーナルを利用でき、レポート、論文をはじめ、各種調べ物がすぐに行える場所。また、2,3人で話しながらの学習も可能。図書館による、情報検索講習会を始めた。授業も行える場。無線LAN配備。ノートパソコンを持ち込んでの利用もできる。	*設置場所：1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：外	211㎡	* 既存の建物の改修により実現した。学内の別の建物の改修により、館内にあったジェンダー研究センターが移転したことにより、利用できる空間が増えたための改修だった。 * 壁をできるかぎり取りはすし、一目で見渡せる設計 とした。狭いスペースをできるだけ有効に活用するためには、部屋を仕切るよりも広く使えるという利点があったうえ、セキュリティ上もその方が都合良かった。 * スペース有効活用のため、 柱周りに立って使えるPC台を設置している。
						キャリアカフェ	グループで話し合いながらの学習が可能のように、自由に組み合わせができる机を配置。プレゼンなどもできるよう、プロジェクター、スクリーンも用意。ドリンク自販機を設置し、ドリンクを飲みながら、長時間のグループ学習にも利用できるようにした。もともと、現代GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)の取組の一つであるキャリアカフェを図書館内においたことから始まっており、学生に職業意識を身につけてもらうことを目的としている。現在は、学生・キャリア支援センターの相談員が週4日間、13:00～17:00に就職相談受付を行っている。無線LANを配備。ノートパソコンを持ち込んでの利用もできる。	*設置場所：1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：外	161㎡	
						ラウンジ	4人掛けの机とリラックスできる椅子を配置。また、キャリアカフェと同じテーブルも用意し、グループ学習にも利用可能。キャリアカフェと同様に、ドリンクを飲むことができる。無線LANを配備。ノートパソコンを持ち込んでの利用もできる。月に一度、ピアノコンサートが行われている。	*設置場所：1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：外	144㎡	
7	静岡大学 静岡本館	* 当館ではLearning Parkというコンセプトを表明している。 * 「Learning」は、学習、研究する場としての図書館。「Park」は人が行き交う都市の中の公園をイメージしている。 * 人と人が出会い、 美しい、学ぶことができる空間、長時間滞在できる快適な空間で、 学生等の利用者の学習・研究をサポートすることを目指している。		なし	2010年4月	ハーベストルーム (Learning Parkの構成要素としては、ゼミナールーム、個人ブース、PCワークエリア、ギャラリーがあるが、ここではLCに直接該当するハーベストルームに限り記述する。)	グループワーク、グループ討論、プレゼンテーションの練習など	*設置場所：5階閲覧室 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	244㎡	*自由に配置できるキャスター付きの机、椅子。 * 衛立としてもプロジェクター用スクリーンとしても利用可能なホワイトボード。 * 学生の行動実態を踏まえたファミレス風ブース。
8	名古屋大学 中央図書館	「ラーニング・コモンズは、次のような学習環境を学生のみなさんに提供することを目指しています。 * 図書館の学術情報基盤をもとにして、 協同学習、ITを活用した学習が行える総合的な学習環境 * 情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス * 学習及び学生生活に関する各種情報の提供」	概算要求時には以下の目的を掲げていましたが、現在は特に明示していません。 1) 学生の学習に必要な情報資源や情報技術関連設備とそれらの活用能力を育成するためのサポートを学生のスキルの程度や情報ニーズに応じて統合的に提供する。 2) 図書館職員によるレファレンスサービス、教員による情報リテラシー教育、TA等による情報技術活用支援、学生のピア・チューターによる学習相談等のサービスを一箇所で受けることができるワンロケーション・サービスとする。 3) これを実現するために、大学図書館が教養教育院、学部・研究科、情報基盤センターや情報メディア教育センター等学内の教育・情報施設との連携・協力を強化し、大学の教育課程に深く関与する新たな役割を創出する。 4) グループ・プレゼンテーション、授業、自学自習等さまざまな学習形態に対応したスペースと必要な設備、ツール、情報資源を統合的に提供する。 5) 授業資料ナビ(バスファインダー)、オープンコースウェア「名大の授業」、学術機関リポジトリなどのデジタル・コンテンツと印刷体の図書館資料をシームレスに活用できる能力を効果的に育成する情報リテラシー教育の実践の場を提供する。 6) 科学技術・学術審議会報告「学術情報基盤の今後の在り方について」(2006年3月)で示された今後の大学図書館における教育支援機能強化及び基盤設備整備のあり方のモデルを提示することにより、他機関での同様の取り組みを支援する。	中央図書館 ラーニング・コモンズ	2009年12月	グルブラーニングエリア	少人数(2人～8人程度)での共同作業、ディスカッションなどによる協同学習。また、プレゼンテーション演習。	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約400㎡	* 入館ゲートを入ったすぐに広がるオープンなスペース、可動式机
						多目的ラーニングエリア	PCを利用した個人、または少人数学習(2～3人)	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約300㎡	*デスクトップの広い机を設置。 *持ち込みPC用コンセントの整備
						ライティングサポートエリア	グラフィックソフトを利用した、PCを使った論文やレポートの作成。	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約140㎡	*2人で作業できるブースを設置。 * ライティング指導用の専用ブースを2つ設置。
						ディスカバリースペース	協調的グループ学習、ワークショップ、セミナーの開催、学術的な交流の場	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約60㎡	*プロジェクター、スクリーンを設置。 *タブレット付の椅子。 *ポスター掲示なども可能。
						セミナールーム	講習会や研究発表、ゼミ、勉強会、プレゼンテーションの練習など。PCのみの利用。	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	A 100㎡ B 32㎡	*全席にPCを設置。 *25台と13台の2室あり。
						AVエリア	視聴覚資料を利用した学習。語学学習。	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約120㎡	*2人用ブースを設置

設 問 項 目	大学名／調査館	1. 貴館が考える「ラーニング・コモンズ(LC)」の目標やポリシー、考え方等	2. 貴館が整備するLCの設置目的又はミッション等	3. 貴館が整備するLCの名称(愛称、仮称等)	4. 貴館が整備したLCの開設年月	8. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：名称	9. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：どのような学習が行われることを想定してデザインしたか	10. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： * 設置場所： * 図書館内外の別： * 入館ゲート内外の別：	11. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：面積	12. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：想定した学習を実現するために施設(建築・設備)の面で工夫点、設計上の特徴
9	金沢大学 中央図書館	学生が効率的に自学自習・グループ学習を行えるような支援を行い、「自ら学ぶ力」の向上に貢献する。	学生が効率的に自学自習・グループ学習を行えるような支援を行い、「自ら学ぶ力」の向上に貢献する。	KUL I C ーα	2010年4月	ブックラウンジ	飲食(軽食)しながら学習できるエリア 気軽に(図書館に)立ち寄る 長時間滞在の合間にリラックス 人が集まる、刺激を受ける	*設置場所：通常の出入り口 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：外	278.660㎡	*スペースの中心にかふえスペースを設置した。
						インフォスクエア	本を含めた様々な情報とふれあう場 ICTに対応したPC環境／情報ポータルの場所	*設置場所：2階カウンター前 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内		*PCを設置し、ブリバイドプリンタへの出力を可能にした。
						コラボスタジオ	本を利用した協調的な学びを展開する場 図書館蔵書とPCを活用したグループ学習やプレゼンテーション演習	*設置場所：3階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	200.325㎡	*少人数(予約制)のグループスタジオを2室、自由に利用できるオープnstudioを1室設置した。
10	大阪大学 総合図書館	ラーニング・コモンズ： 図書館所蔵の紙資料と電子資料の双方を自由に利用できる空間で、学生や教員が互いにコミュニケーションを取り合い、共に考え、ディスカッションする主体的な「学びの場」「創造の場」「発想の場」。	LC：TeachingからLearningへ、ReadingからLearningへと大きく変化する教育・学習方法に対応し、自主的、自立的な課題解決型学習を支援することを目的として設置。	総合図書館 ラーニング・コモンズ	2009年6月	総合図書館ラーニング・コモンズ	グループによるディスカッション、プレゼンテーション、授業、講習会等 様々な学習スタイルを想定してデザイン。	*設置場所：B棟2階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	756㎡	○ コラボレーションゾーン、端末ゾーン、フリーゾーン、ラウンジゾーンの4つに区画し、学生や教員がそれぞれのスタイルに合わせて自由に利用できるよう設計。 貸出用PCや利用待ち込みPCが利用できるよう情報コンセントや無線LAN環境も整備。卓上型や間仕切り代わりとしても利用できる両面型等、各種ホワイトボードを配置。座席106席、ソファ24席。 ・ コラボレーションゾーン：10名前後のグループによる利用を想定し、透明のパーテーションで3区分。各2台の据置PCを配置。 ・ 端末ゾーン：両端のテーブル4台には、数名によるPCを活用した学習を想定し、各3台の据置PCを配置。中央のテーブル3台(各6席)には、PCは配置せず、少人数のグループがスタイルや人数に応じて自由に組み替えて利用できるよう、移動と組み合わせが可能なテーブルや椅子を配置。 ・ フリーゾーン：様々な利用を想定し、一人から多人数まで状況と必要に応じて自由にレイアウトを変更できる可動式のテーブルや椅子を配置。全学のコミュニケーションツールとして、大学からの情報が配信される103インチの大型ディスプレイO+PUS (Osaka University + Panasonic Universal Sight)を設置。 ・ ラウンジゾーン：くつろぎと情報交換の場として、ソファを配置。 同一エリアの一面に定期・不定期に図書館資料展等を開催するギャラリーゾーンを併設。 ○ B棟2階をラーニング・コモンズとして整備すると同時に、B棟3階には、サイバーメディアセンターの情報教育システム端末等PC66台が利用できるとともに、プロジェクターによる本格的なプレゼンテーションやゼミが可能なグループ学習室(2部屋)が設置された端末ゾーン(座席128席)、B棟4階には、PCの持ち込み禁止で、一人で静かに自学自習ができ、個人ブース20席も設置されたサイレントゾーン(座席230席)を整備し、フロアごとに利用目的に合わせたゾーニングを実施。各階の耐震用ブレースも、2階オレンジ、3階グリーン、4階ブルーとフロアごとに色分けし、什器もテーマカラーに応じて配属。各階に防犯カメラを設置するとともに、防犯と利用状況確認を兼ねて、ラーニング・コモンズの利用者スペースに大型の防犯カメラモニタを設置。
		グローバル・コモンズ： ラーニング・コモンズを「学びのスタイルの多様化」「国際化」の方向で機能強化した共同学習空間で、試験期の24時間利用を実現するとともに、多言語・異文化理解のための自主的な学びと交流を支援する場。	GC：「学びのスタイルの多様化」「国際化」に対応し、24時間利用を実現するとともに、多言語・異文化学習を促進し、留学生と日本人学生の学びと交流を支援することを目的として設置。	総合図書館 グローバル・コモンズ	2012年11月	総合図書館グローバル・コモンズ	グループによるディスカッション、プレゼンテーション、授業、講習会等 様々な学習スタイルを想定したラーニング・コモンズのデザインをさらに進化させ、24時間利用や多言語・異文化学習等の多様な学習目的にも対応できるようデザイン。	*設置場所：C棟2階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	545㎡	○ プレゼンテーションゾーン、コラボレーションゾーン、フリーゾーン、ワールドニュース閲覧ゾーンの4つに区画し、ラーニング・コモンズよりもさらに多様な学習スタイルに対応できるよう設計。24時間利用を想定し、据置PCは配置せず、情報コンセントや無線LAN環境のみ整備。 ラーニング・コモンズよりも可動式のテーブルを多く配置するとともに、壁面、柱面を活用したホワイトボード、プレゼンテーション設備、ディスカッション用テーブル型タッチディスプレイ、電子黒板等アクティブ・ラーニングを実践するための様々な設備を導入。座席114席、ソファ10ベンチ8席。 ・ プレゼンテーションゾーン：30名前後のプレゼンテーション、授業、講演会等での利用を想定し、天井設置のプロジェクター、スクリーン、マイク設備等を設置。普段は、テーブルを自由に組み合わせて人数に応じたグループ学習が可能。 ・ コラボレーションゾーン：数名から10名前後のグループによる利用を想定し、ある程度区画の独立性を意識してテーブルや椅子を配置。特に奥の区画は、独立したグループ学習スペースとして、授業や講習会等での利用が可能。 ・ フリーゾーン：様々な目的に応じた利用を想定し、自由な組み合わせが可能なテーブルや椅子を配置。 ・ ワールドニュース閲覧ゾーン：多言語・異文化学習、留学生と日本人学生の交流やディスカッションを想定し、世界各国の新聞が閲覧できるタッチディスプレイ(32インチ)、テーブル上の大型ディスプレイに表示したコンテンツを複数人が同時に操作しながらディスカッションができるテーブル型タッチディスプレイ(52インチ)、「和」を想起させる畳を使用したベンチ等を設置。 ○ 同一フロアの東玄関ホールの一画に、くつろぐことができ、談話も可能なスペースとしてイーストラウンジを整備。無線LAN設備、車椅子対応の洗面台、このスペースのみで利用可能なカップ式飲料自動販売機を設置。24時間開館時は、食事事も可とする。 ○ 24時間開館実現のため、入退館管理システム、防犯カメラ、窓の防犯センサー、24時間開館時に他区画と仕切るための折れ戸等を設置。防犯と利用状況確認を兼ねて、グローバル・コモンズの壁外とA棟2階メインカウンターの上部に大型の防犯カメラモニタを設置。
11	広島大学 中央図書館	* ネット資源活用を前提とした、人と情報、人と人が出会う開かれた学習空間 * グループ学習・作業のための共同で学ぶ空間		BIBLA (ヨミ：ビブラ) 中央図書館が先行したため中央図書館は単にBIBLAのままで呼称、各館は以下のとおり 東図書館：BIBLA East 霞図書館：BIBLA Kasumi	* 中央東図書館 2010年4月 [以後、順次展開整備した設備等もあり] * 霞図書館：2013年9月30日	BIBLA Study Space (ビブラ スタディスペース)	ネットワークパソコンと図書館資料＜特に参考図書＞の両用を想定した開かれた書斎空間	*設置場所：中央図書館1階(参考図書コーナー隣) *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	371㎡	*中央図書館は「丹下健三・都市・建築設計研究所」により設計されており、当該エリアは入館者がホールから利用者の閲覧風景を見通せるという重要なコンセプトを具現する空間であった。この当初のコンセプトを阻害しないように空間改修を依頼した。 *持ち込み荷物の据え置きも確保したうえで、図書もパソコンも利用できるように一人当たりの単位空間を広くとった。
						BIBLA Group Space(ビブラ グループスペース)	協調型学習	*設置場所：中央図書館1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	174㎡	*静養学習空間と協調型学習空間とのオープンな共存については、準備諸段階(国内外)先行事例見学やシンポジウム参加等から、ノイズコントロールが困難との情報を得ていたため、ドア(全面ガラス)で空間を区切った。 *事前に学内の協調型学習空間における授業実践教員と受講学生入場取り調査を実施した。その結果、空間設計で重要な情報(ホワイトボード＜可動式がベスト＞は可能な限り多くとる、教育面では共に考え・記録をとるという行為を阻害するため、画像取得可能なホワイトボードは不要など)を得られた。 *なお、情報メディア教育研究センターの端末室としての改修の側面があったため、据え置きパソコン台数をゼロにすることはできなかった。 *数種類に模様替え可能な什器構成(数グループの協調型学習空間＜基本＞、講演会、講習会)
						BIBLA Work Space(ビブラ ワークスペース)	総合案内カウンター＋利用に付随するコピー・印刷の作業エリア	*設置場所：中央図書館1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	288㎡	*パソコン利用とレファレンスサービスのワンストップサービスを目指す総合案内カウンターを設置した。 *総合案内カウンターの後ろはゆっくり対応できるコーナーを(図書館による人的支援サービスを空間的アピールにもなる)設置した。 *将来、ライティング支援空間にも転用できるよう、コピー・印刷エリアはゆったり什器をレイアウトした。
						ライティングセンター	(2013年11月1日から文章指導開始) 本格設計はこれからの展開			

設 問 項 目	大学名／調査館	1. 貴館が考える「ラーニング・コモンズ(LC)」の目標やポリシー、考え方等	2. 貴館が整備するLCの設置目的又はミッション等	3. 貴館が整備するLCの名称(愛称、仮称等)	4. 貴館が整備したLCの開設年月	8. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：名称	9. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：どのような学習が行われることを想定してデザインしたか	10. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： * 設置場所： * 図書館内外の別： * 入館ゲート内外の別：	11. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：面積	12. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：想定した学習を実現するために施設(建築・設備)の面で工夫点、設計上の特徴
12	九州大学 中央図書館	*九州大学附属図書館では、「学問的雰囲気と活気に満ちた学習図書館の実現」をミッションの一つに掲げており、ラーニング・コモンズはこのミッションに沿ったものである。 *また、2017年度に開館予定の新中央図書館では、「主体的な学びを創出する図書館」をコンセプトの一つに掲げ、基本機能に「目的や学習形態、人数に応じ選択できる多様な学習スペースを提供」「主体的な学びをうみだす学習の場のマネジメント」等を挙げている。	1. に掲げたミッションに基づく設置であり、具体的には、下記のとおり設置(経費要求)時の目的：学部学生の学習の場・授業との連携の場・イベント開催の場 現在の方向性：能動的学修を促進する場。知の交流の場	きゅうとコモンズ	2009年10月		グループ学習、ホワイトボードやスクリーンを使用した学習・プレゼン等、グループでPCを使いながらの学習や作業	*設置場所：中央図書館2F *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	383㎡	*参考図書室のレファレンスブックを書庫へ移動し、書架を撤去したスペース(参考図書室の約半分)を改修
	九州大学 嘸鳴天空広場		* (設置目的) 講義室の近くに学習スペースと図書館機能を設ける * (コンセプト) 学生が集い語り学び合い、互いに切磋琢磨しながら成長する場所	嘸鳴天空広場Q-Commons	2009年4月		*初年次学生のグループ学習や一人での学習、グループでPCを使いながらの学習や作業、図書を使いながらの予習・復習	*設置場所：(伊都地区)全学*教育講義棟4F *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：	約500㎡	*ゾーニング：コミュニケーションゾーンと学習ゾーン等を什器と動線によりゾーン分け *什器の選定と配置：ゾーン毎に最適な什器の選定 *コミュニケーションゾーンで動かしやすくかつ活発な議論を促す色・デザインを考慮 *学習ゾーンで固定式の机イス、自分のスペースを図書館より少し狭くして席数確保 *リラク্সゾーンでデザイン的にもしるい什器を窓際に配置
13	国際基督教大学	当時(2000年当時)、海外で広がっていたインフォメーションコモンズの考え方を手本に、印刷媒体資料と電子媒体資料の統合的利用を主目標とした。	電子資料利用についてCD-ROMからインターネットへと広がらつつある時期だった。電子資料の利用環境の充実及び冊子体蔵書との接続(cel.自動化書庫を同一時期に設置)を目的として、122台のPCを導入した。	学生間には建物名称である「オスマー図書館」という呼称が通用している。	2000年9月	スタディエリア グループラーニングエリア ライティングサポートデスク ブレイクエリア(自動販売機設置(1台))	*個人学習 *グループ学習 *ライティングサポートの活用 *休憩、飲み物	*設置場所：オスマー図書館 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内 *設置場所：オスマー図書館 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内 *設置場所：オスマー図書館 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内 *設置場所：オスマー図書館 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約1000㎡ 約300㎡ 約150㎡ 約150㎡	*壁を設けず広大なフロアとし、拡張性を担保 *壁を設けず広大なフロアとし、拡張性を担保 *壁を設けず広大なフロアとし、拡張性を担保 *軽い囲い(本当は厳格にゾーニングしたかったが、予算の関係で軽い囲いに留めた)
14	同志社大学	*「知的欲望開発空間」を全体コンセプトとしている。 *これは、「正課科目」の授業外学習時間の増加と質向上を、アクティブ・ラーニングを通じて推進することを目的としている。このため、課外活動は想定しない立場である。 *教育支援機構が運営を担当するのはその理由からである。 *課外に焦点をあてるのであれば、学生支援センター：旧学生部が管轄となる。しかし、インターンシップ、ボランティアを含むサービ・ラーニングの展開など、正課と課外の境がボーダレスになってくる潮流があり、今後調整と見極めが必要になる。 *正課(に近い活動)と認識する基本は、評価の「アセスメント指標」がそのプログラムに備わっているかどうかにあると考えている。	(利用要領より)※2014年1月に下記の要領の改訂あり。それまでは暫定版。 (趣旨) 第1条 同志社大学ラーニング・コモンズ(以下「ラーニング・コモンズ」という)は同志社大学学生の学習活動を支援するための施設であり、利用にあたっては、この要領の定めるところによる。 (利用目的) 第2条 ラーニング・コモンズの利用目的は、本条各号に定めるもので、授業外での学生の主体的学習活動、およびそれを支援する活動とする。 (1) 個人またはグループによる学習 (2) 学生を対象としたフォーラム、シンポジウム、パネルディスカッション、講演会等 (3) 学生を対象とした学習スキル向上のためのセミナー、ワークショップ等 (4) その他、教育支援機構長(以下「機構長」という)が認めた学習支援活動	コンセプトが利用者に浸透してから、公募する予定。 大学執行部案として“DOLCE”であったが、全体のコンセプトが得られず保留状態。 学内にまずは「ラーニング・コモンズ」の考え方を浸透させるために、そのまま使っている。	2013年4月	プレゼンテーションコート グループワークエリア インフォダイナー グローバルビレッジ アカデミックサポートエリア プリントステーション マルチメディアラウンジ ワークショップルーム グループスタディルーム インフォメーションカウンター	多用途のフリースペース。講演会、シンポジウム、セミナー、大規模なポスターセッション、ワークショップ等。 グループワーク、小規模のセミナー、小規模のポスターセッション。パフォーマンス(お茶、お花など)。 リラックスしたミーティング。カジュアルな学習。いわゆるワイ・ガヤ 多文化交流スペース。留学生と国内学生の交流場所、ワールド・カフェ、トーク・カフェイベントの中心地。 個人だけでなくグループでのチュータリングも行える。 アウトプットを支援する。特に、どのような印刷物の形態をとれば、効果的な成果報告ができるかのコンサルテーションが受けられること、著作権を遵守するための現場教育に力をいれるようテナント業者に確認している。 画像制作、動画編集などのアウトプット支援。PBL科目で制作される、老人ホーム慰問用のドラマ制作等、今後のディジタル・ストーリー・テリングでの成果報告を可能にしている。 他の建物内にあったものを、より目立つラーニング・コモンズの一角に移設。 アカデミックスキルを実践的に学べる。スキルアップ中心のセミナー、ワークショップの開催場所。 グループ学習・研究。 ラーニング・コモンズの施設案内と利用案内。	*設置場所：クリエイティブ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別： *設置場所：クリエイティブ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別： *設置場所：クリエイティブ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別： *設置場所：クリエイティブ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別： *設置場所：リサーチ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別： *設置場所：リサーチ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別： *設置場所：リサーチ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別： *設置場所：リサーチ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別： *設置場所：クリエイティブ・コモンズ *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：	約330㎡ 約120㎡ 約210㎡ 約285㎡ 約190㎡ 約40㎡ 約85㎡ 約130㎡(2スペース合計) 約300㎡ 約35㎡	*フレキシブルな空間 移動しやすい軽量の椅子・机、ロールスクリーンによるスペースの仕切り(4分割まで)。 *複数の天井りカメラ(複数のアングルから撮影・投影)。 *複数の天井りプロジェクター(6台) シグリーメントによる作業を想定したホワイトボード兼スクリーン(6か所)。 *TEDxスタイルのプレゼンテーションを見越した移動式数値(舞台)。 *天井スラブから、スマート・インフィル(スチールの方格フレーム)を直吊りすることで、今後の機器類設置、パネル等の吊りを容易にしている。 *量型の台座を設置。用途に合わせて組み合わせが可能な、形の違う机を用意。 *電子黒板の配置。スクリーンとプロジェクターも配備。 *スマート・インフィル(スチールの方格フレーム)を床から立てて設置することで、今後の機器類設置、パネル等の吊りを容易にしている。 *スクリーンにもなる全面壁面ホワイトボード、短焦点プロジェクター、またはプラズマディスプレイを用意したボックス席。 *海外放送の受信設備とハイカウンターテーブル(通りがかりの学生が合流して立ったまま、座っているひとに合流できる高さ：Apple Storeの机と同じ高さ)。 *大型テーブルで交流を促す(地図、計画表等大型の資料の協同閲覧を想定)。 *Go! Global(留学相談)コーナーを設置。 *サポートスタッフ(含む教員)が常駐する。教員・スタッフのオフィスともなっている。 *スマート・インフィル(スチールの方格フレーム)を床から立てて設置することで、さまざまな学習の成果物の見本を展示でき、また今後の機器類設置、パネル等の吊りを容易にしている。 *大判のポスター出力まで可能な機器、製本機等を設置。委託された印刷業者が運営。 *安価に大判プリントが可能 *画像編集などが可能なソフトウェアをインストールしたPCが利用可能。 *専属スタッフが常駐してサポートする。 *機器のセキュリティを考慮して、このエリアはガラスで囲う空間となっている(上部は空いている)。 *簡易スタジオとしても使えるクローズドタイプと開放的なオープンタイプのワークショップルーム。 *移動が案にできるタブレット付きチェアを用意。 *7つのルームをストリングカーテンで、2部屋続き、3部屋続き、2部屋続き(合計7部屋・区切りに全面ホワイトボードをいれている)とフレキシブルにスペースを仕切ることができる。 *予約が必要なスペースとフリーなスペースとがある。 *PCロッカーを設置。 *貸出用PC80台。 *返却はメールでアラート。

設 問 項 目	大学名／調査 館	13. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： 設備（什器類）	14. LCの整備に 当たって： 予算 の出处	15. LCの整備に当 たって： どのよう にしてスペースを設 けたか。	16. 準備及び計画について： LCの基本的なコンセプト、デザイ ンの検討体制、検討期間、検討内容等	17. 準備及び計画に ついて： 計画段階 での問題点	18. 準備及び計画 について： 計画 段階での問題点へ の対応	19. LCにおける人的 支援： スタッフ	20. LCにおける人的 支援： スタッフ毎の 主なるサービス内容	21. LCにおけ る人的支援： サービス時間 週〇日 〇時～ 〇時	22. LCにおける人的 支援： サービス展 開上のコンセプト・ビ ジョン	23. LCにおける 人的支援： 人 件費の出处	24. LCにお ける人的支 援： 学生 スタッフ(名 称・愛称)： (採用人数)	25. LCにお ける人的 支援： 学 生スタッフ (採用方法)
1	北海道大学 本館	■ひとり用の据置PC ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他の貸出用備品（ヘッドホン） ■その他整備している設備（無線LAN） ■ひとり用の据置PC ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン 												

設 問 項 目	大学名／調査 館	13. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて ： 設備（什器類）	14. LCの整備に 当たって： 予算 の出处	15. LCの整備に 当たって： どのよう にしてスペースを設 けたか。	16. 準備及び計画について： LCの基本的なコンセプト、デザイ ンの検討体制、検討期間、検討内容等	17. 準備及び計画 について： 計画段階 での問題点	18. 準備及び計画 について： 計画 段階での問題点へ の対応	19. LCにおけ る人的支援： スタッフ	20. LCにおける人的 支援： スタッフ毎の 主なるサービス内容	21. LCにおけ る人的支援： サービス時間 週〇日 〇時～ 〇時	22. LCにおける人的 支援： サービス展 開上のコンセプト・ビ ジョン	23. LCにおける 人的支援： 人 件費の出处	24. LCにおけ る人的支援： 学 生スタッフ（名 称・愛称）： （採用人数）	25. LCにお ける人的支援： 学 生スタッフ （採用方法）
5	新潟大学 中央図書館	■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■その他の貸出用備品 （貸出用プロジェクター、貸出用投影スク リーン） ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン（※白い壁面をスクリーンとし て利用） ■ひとり用の据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■その他の貸出用備品 （スカイプ） ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ひとり用の据置PC ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他整備している設備 （大型プリンタ、画像編集用PC、ス キャナー） ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボ ード ■可動パーティション ■その他の貸出用備品 （貸出用プロジェクター、貸出用投影スク リーン）	概算予算（耐震改修 予算）	■増築	＜検討体制＞ ＊メンバー： 増改修WGラーニング・コモンズメンバー 6名 ＜検討期間＞ ＊1年6ヶ月 ＜検討体制＞ ＊メンバー： FL-SALCメンバー5名 ＜検討期間＞ ＊1年 ＜検討内容＞ ■施設 ■設備	＊学習スタイルに適した 施設やエリアの工夫、備 品の選択	＊他大学の見学等	■大学院生 ■学部学生 ■その他（FL- SALCアシスタ ント、FL- SALC英語学習 アドバイザー）	■利用案内、学習相談： 大学院生、学部学生 ■その他（英語学習相談） ： FL-SALC英語学習ア ドバイザー／（FL-SALC 利用案内）： FL-SALC アシスタント	＊大学院生、学部 学生 週5日 13時～ 16時 ＊FL-SALC英語 学習アドバイザー 週5日 9時～18 時 ＊FL-SALCアシ スタント 週5日 9時～16 時		＊学生スタッフ支 援経費（大学院 生、学部学生） ＊グローバル人材 育成推進事業経費 （FL-SALCアシス タント、FL-SALC 英語学習アドバイ ザー）	＊ラーニング アドバイザー ： 24名	＊図書館学生 サポーターを 中心としたグ ループに担当 を依頼した。
6	お茶の水 女子大学	■ひとり用の据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■その他の貸出用備品 （マイク、荷物入れ用サイドワゴン、ひざ かけ（冬のみ））	学内予算・特別経費 ＊学長裁量経費：壁 撤去などの施設改修 ＊現代的教育ニ ーズ 取組支援プログラ ム（現代GP）「科学 的思考力と表現力 で築く「私の履歴 書」」：キャリアカ フェ什器購入	■什器配置換え ■改修	＜検討体制＞ LC：図書館1階の半分を占めていた研究センターの移転計画を受け、跡地をどのように利用す るかチーム内で検討を行った。結果、元々図書館内に存在していたPCコーナーの機能を拡充 し、単なるPC利用場所ではない学習コミュニケーションスペースを提供することとし、総合情 報処理センター（当時）とともに詳細を検討した。 ＜検討期間＞ 約4ヶ月 ＜検討体制＞ ラウンジ：IT環境の整備だけではなく、学生がリラックスできる空間を提供するため、「明る く見通しのよい図書館」をキーワードに、チーム内にラウンジリニューアルプロジェクトを立 ち上げ、リニューアルを実施した。 ＜検討期間＞ 約6ヶ月 ＜検討体制＞ キャリアカフェ：「将来の自分像について、コーヒーを片手に自由に話すスペース」の設置場 所を探していた現代GPを誘致し、現代GPの担当者、利用者サービス担当者を中心に検討を 行った。 ＜検討期間＞ 約5か月 ＜検討内容＞ ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ ■運営組織 ■学内関連組織との連携			■PC利用ガイダンス： 大学院生 ■その他（教務システム、 履修登録、e-learningシ ステム等入力支援：大 学院生	土日祝日以外の開 館期間中常駐。 ＊授業期間中 週5日 9時～21 時 ＊休業期間中 週5日 9時～17 時	＊2014年度に向けて、 学修の支援に関するサ ポートを増やす予定。	＊特別経費「学生 主体の新しい学士 課程の創成-21世 紀型リベラルア ーツと複数プログラ ム選択型専門教育 （2013年度で終 了）」	＊ラーニン グ・アドバイ ザー（LA） ： 21名（固 定14、臨時 7）	＊研究室や サークル、学 科等の先輩後 輩からの紹介	
7	静岡大学 静岡本館	■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■その他の貸出用備品 （インタラクティブ・ユニット（ホワイト ボードへの書き込みをPCに取込）） ■その他整備している設備 （無線LANアクセスポイント、有線 LAN・電源の床コンセントによるサービス）	学内予算	■改修	＜検討体制＞ ＊館内ワーキンググループメンバーを中心に、図書館委員、学生モニターの 意見なども取り入れて検討を行った。 ＜検討期間＞ ＊2008年10月から検討開始。 ＊オープンな意見交換会も2度開催した。 ＜検討内容＞ ■施設 ■設備			■大学院生 ■その他（特任 教員、学術研究 員）	■利用案内、学習相談： 学習相談：学術研究員 ■その他（数学の学習支 援）：大学院生／（英 語の学習支援）：特任 教員	＊大学教育セン ターの事業とし て、2013年度よ り一定期間のみ実 施。 ＊2013年度前期 は、7月（試験期 前）の水木金の午 後に実施。		＊全学キャリアデ ザイン教育 ＊FD部門運営経費		
8	名古屋大学 中央図書館	■ひとり用の据置PC 6台 ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他の貸出用備品 （プロジェクター、スクリーン） ■ひとり用の据置PC 10台 ■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） 4台 ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■ひとり用の据置PC ■ホワイトボ ード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン	概算要求（2008年 度、2009年度に予 算措置）	■什器配置換え	＜検討体制＞ ＊ラーニング・コモンズ構築WG（施設整備グループ4名、運用サービス グループ4名、人的支援担当2名、情報機器担当2名、教員アドバイザー2 名） ＜検討内容＞ ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ ■学内関連組織との連携	＊工期等の制約により、 具体的なサービスを意識 したコンセプトの検討が 十分できないまま施設の 計画を進めざるを得な かった。	＊2期目の工事期間で できる範囲の修正を 行った。また、完成後 も施設、設備面での改 善を行っている。	■大学院生	■日本語ライティング指導 ：大学院生 ■英語ライティング指導 ：大学院生 ■情報収集、入手支援： 大学院生 ■利用案内、学習相談： 大学院生 ■PC利用ガイダンス： 大学院生 ■その他 （内容：（大学院生）ライ ティングに関するミニ講 座、英会話ワークショップ の開催）	＊週5日 15時～ 19時	＊コンセプトとして定め たものはないが、留学生 向けサービスを行うた め、英語、中国語での対 応が可能なスタッフを雇 用している。	＊図書館運営費 （人件費）	＊サポートス タッフ： 9 名	＊公募、面接 による選考

設 問 項 目	大学名／調査館	13. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： 設備（什器類）	14. LCの整備に 当たって：予算 の出処	15. LCの整備に 当たって：どのよう にしてスペースを設 けたか。	16. 準備及び計画について：LGの基本的なコンセプト、デザイ ンの検討体制、検討期間、検討内容等	17. 準備及び計画に ついて：計画段階 での問題点	18. 準備及び計画 について：計画 段階での問題点へ の対応	19. LCにおけ る人的支援： スタッフ	20. LCにおける人的 支援：スタッフ毎の 主なるサービス内容	21. LCにおけ る人的支援： サービス時間 週〇日 〇時～ 〇時	22. LCにおける人的 支援：サービス展 開上のコンセプト・ビ ジョン	23. LCにおける 人的支援：人 件費の出処	24. LCにおけ る人的支援：学 生スタッフ（名 称・愛称）： （採用人数）	25. LCにお ける人的支 援：学 生スタッフ （採用方法）
9	金沢大学 中央図書館	■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他整備している設備（展示スペース、カフェPressDisplay(海外オンライン新聞)閲覧端末、CNN/BS視聴テレビ） ■ひとり用の据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他整備している設備（壁面ホワイトボード）	学内補正予算	■改修	<検討期間> *2009年6月末～7月上旬 *学長から図書館における学習支援事業計画を求められ、中央図書館ラーニング・commons整備案を提案。 <検討期間> *2009年8月～9月 *予算化された場合を想定し、業者からの提案、他大学の事例を参考に、整備内容の検討を進め、「ブックラウンジ」、「コラボ＊スタジオ」等の基本プラン案を作成。 <検討期間> *2009年9月 *学内補正予算として、予算化される。工事内容等、施設との打ち合わせを開始。 <検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■運営組織	*遮音、臭気対策	*厚ガラスによる閲覧エリアとの分離	■教員	■日本語ライティング指導： ■情報収集、入手支援： ■利用案内、学習相談：	*週2日 16時～18時		*文部科学省 2012年度「大学間連携共同教育推進事業」採択事業 「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」		
10	大阪大学 総合図書館	■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他の貸出用備品（プロジェクター） ■その他の整備している設備（大学生協のプリペイド式カード利用によるプリンタ、103インチ大型ディスプレイ、防犯カメラ、防犯カメラモニター） ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■その他の貸出用備品（プロジェクタ、シート型電子黒板、防犯ブザー（24時間監視時）） ■その他整備している設備（マイク設備、テーブル型タッチディスプレイ、新聞閲覧用タッチディスプレイ、電子黒板）	施設整備費補助金（耐震改修予算）及び学内予算	■改修	<検討体制> *附属図書館施設委員会（メンバー：館長、各副館長、事務部長、各課長）で検討。 <検討期間> *2007年6月～2008年10月 <検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■運営組織		■図書館職員 ■その他（大学院生のティーチング・アシスタント（以下「TA」））	■利用案内、学習相談：TA、図書館職員 ■その他（TA講習会の企画・実施、学習用図書の選書：TA）	*TA 週5日 12時～19時の間で、週25時間	*学生の主体的な「学び」の場であるラーニング・commonsには、学習に関する人的サポートが不可欠の要素であり、それには、学生にとってより身近な存在であるとともに、学習に関する助言や指導により本人自身の教育者としてのトレーニングや情報活用能力向上にもつながる大学院生のTAが相応しいという考え方のもとに、LC開設当初より同一エリア内に利用支援カウンターを設けて大学院生TAを配置し、隣接する参考調査カウンターの図書館職員と連携して、学習支援を実施している。	*附属図書館 ティーチング・アシスタント（図書館TA）：6名	*図書館による学内公募		
			大学教育研究特別整備費及び学内予算	■改修	<検討体制> 附属図書館施設委員会で検討。 <検討期間> 2011年7月～2012年9月 <検討内容> ■施設 ■設備 ■コンテンツ ■運営組織 ■学内関連組織との連携									
11	広島大学 中央図書館	■ひとり用の据置PC ■その他整備している設備（荷物置き使用可能なキャスター付ローユニット） ■グループで使うことを想定した据置PC ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン（自立型と天井吊り下げ式） ■その他整備している設備（ペーパークリップ 追加用一人テーブル、ホワイトボードユニット用壁掛けレール、全面ホワイトボードの間仕切り） ■その他整備している設備（ゆったり対応できる応接什器、デュアルディスプレイ、無線マウス）	補正予算（法人本部事業計画）	■改修	<検討体制> *実施段階は約半年であったためサービスを所掌する普及グループ[課に相当]を中心とした臨時ワーキンググループで検討した。 <検討期間> *コンセプト確定とゾーニング決定までは館内ワーキンググループ等で、2年に渡り検討した。 *デザインは数社に提案依頼し、一番評価が高かったメーカー案を参考に、入札で他社も参入可能な案を策定した。 <検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■運営組織 ■学内関連組織との連携	*予算配分時期の関係で、実施段階の検討時間と予算不足。 *そのため、施設先行になり人的支援展開検討が不十分であった。 *提供できる協調型学習空間の狭さ（間仕切りできる天井区画の物理的制約）	*初期稼働以降も理事裁量経費等獲得の努力で初期に用意できなかった部分の改修等を実施した（サイン、グループスペース占有利用時のトークフリー代替空間改修、端末増対応等） *稼働後数年間は可能な範囲で人的支援を実施（パソコン利用も資料＊データベース利用の質問も一か所で見聞できる情報メディア教育研究センターとレファレンスサービスとの合同カウンター運営）してきたが、2013年度からライティング支援が展開可能となった *未解決	■図書館職員 ■大学院生 ■その他（PC利用 情報メディア教育研究センタースタッフ）	■日本語ライティング指導：大学院生 ■情報収集、入手支援：図書館職員 ■利用案内、学習相談：図書館職員 ■PC利用ガイダンス：情報メディア教育研究センタースタッフ	*レファレンスサービス 週5日 9時～17時 *パソコン利用支援 週5日 9時15分～17時 *ライティング支援				

設 問 項 目	大学名／調査館	13. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： 設備（什器類）	14. LCの整備に 当たって：予算 の出処	15. LCの整備に 当たって：どのよう にしてスペースを設 けたか。	16. 準備及び計画について：LCの基本的なコンセプト、デザイ ンの検討体制、検討期間、検討内容等	17. 準備及び計画に ついて：計画段階 での問題点	18. 準備及び計画 について：計画 段階での問題点へ の対応	19. LCにおけ る人的支援： スタッフ	20. LCにおける人的 支援：スタッフ毎の 主なるサービス内容	21. LCにおけ る人的支援： サービス時間 週〇日 〇時～ 〇時	22. LCにおける人的 支援：サービス展 開上のコンセプト・ビ ジョン	23. LCにおける 人的支援：人 件費の出処	24. LCにお ける人的支 援：学生 スタッフ(名 称・愛称)： (採用人数)	25. LCに おける人的 支援：学 生スタッフ (採用方法)
12	九州大学 中央図書館	■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■その他整備している設備（作業用テーブル・ステープラー等作業用具類）	学内予算（間接経費）	■改修	<検討体制> *サービス担当職員による <検討期間> *2009年2月～10月 <検討内容> ■施設 ■設備 ■コンテンツ	*職員が目常には行き届かない場所にあること。	*定期的に見回りをする。							
	九州大学 嘸鳴天空広場	■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■可動パーティション（ホワイトボードがパーティションを兼用） ■その他整備している設備（コピー複合機（USBメモリからの印刷が可能））	学内予算（学長裁量経費）	■新規	<検討体制> *附属図書館（新図書館検討メンバー）、学務部、高等教育開発推進センター長 *設置経緯：六本松地区（初年次教育実施）の新キャンパス移転に伴い、講義棟から図書館が遠くなることに教員からの不満が続出したため、急速、将来的に整備予定としていた講義棟4階の空きスペースを、ラーニング commons として整備することとなった。 <検討期間> *約1年間（構想からオープンまで） <検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ ■運営組織 ■学内関連組織との連携	*六本松地区移転の諸々の移転業務の中で、急速整備が決定したものであったため、運営体制等十分な検討ができなかった。 *学務部及び初年次教育担当教員と定期的に打合せを行いながら計画・実行を進めたが、イメージを共有できなかったり、担当者間の考えが異なったりと、調整に時間と労力を費やした。		■図書館職員 ■大学院生	■利用案内、学習相談：大学院生（図書館学習サポーター）	*週5日 9時～21時		*図書館学習サポーター：学内プロジェクト経費（EEP：教育の質向上支援プログラム）及び情報統括本部からの経費		
13	国際基督教大学	■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む）	*建物：学内予算（寄付金） *什器：「私立大学教育研究活性化設備整備事業」	■増築	<検討体制> *原案検討：館内10名程度のプロジェクトチーム *成案策定：図書館委員会相当組織 <検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ	*PC利用サポート	*ITセンターとの協力	■図書館職員 ■大学院生 ■学部学生 ■その他（初期はITスタッフを外部委託）	■日本語ライティング指導：大学院生 ■英語ライティング指導：大学院生 ■情報収集、入手支援：図書館職員（英語による案内は大学院生） ■利用案内、学習相談：図書館職員 ■PC利用ガイダンス：図書館員、大学院生、学部生）	*ライティング支援 常駐：12時～15時 予約：9時～17時のうち好きな時間	*図書館職員が、旧来の図書館業務に閉じ籠らず、やれることは全部やる	*図書館の経常経費	*ライティングスタッフ（チューター）：10名 *PCサポート人員：10名	*教員推薦、前任者の紹介、口コミ等が主体
14	同志社大学	■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■その他の貸出用備品（マイク、スピーカー） ■その他整備している設備（HDカメラ（録画用）、TV会議設備） ■その他整備している設備（電子黒板） ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他整備している設備（プラズマディスプレイ） ■ひとり用の据置PC（他言語対応PC） ■その他整備している設備（海外放送（世界174局）受信設備 海外新聞が閲覧できるディスプレイ） ■ひとり用の据置PC ■ホワイトボード ■その他整備している設備（プロッターなど各種印刷出力が可能） ■ひとり用の据置PC ■その他整備しる設備（画像、動画編集設備） ■その他整備している設備（ディスプレイ、HDカメラ、マイクなど録画機器） ■ホワイトボード ■その他整備している設備（電子黒板） ■貸出用PC（タブレット・ポータブルも含む） ■その他整備している設備（PCロッカー）	*学内予算 *G30等学外予算 *Panasonicからの大型寄付	■新規	<検討期間> 2008年～2010年 <検討体制> *具体化検討委員会で学長宛答申作成。（各学部の委員がコンセプトを理解しないまま希望を主張し、スペースの陣取り合戦に陥るため、打ち切って、学長諮問の会議から原案提示型に切り替え） <検討期間> 2011年～2012年 <検討体制> *学長の諮問委員会として検討WGを設置。 *関係課長及び教員、6～7名 <検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■運営組織 ■学内関連組織との連携	*基本的に教員が従来型学習者の囚人であるため、認識の転換を導く説明等が必要。	*学部の主張を排除して、学長提案型で押し切る方法をとることが賢明な策である。	■教員 ■図書館職員 ■大学院生 ■学部学生	■日本語ライティング指導：教員、院生 ■英語ライティング指導：教員、院生 ■情報収集、入手支援：図書館職員 ■利用案内、学習相談：教員、院生 ■PC利用ガイダンス：職員、学生	週5日 9時～19時	*教員ができるサポート、ピアだからできるサポートを意識する。 *チームでのサポート。	*ラーニング・commons運営経費 *人的スタッフを送って来る連携部署の運営経費（留学コーディネーターは国際センターの予算、ITサポートスタッフは、情報支援課…といった具合）	*ラーニング・アシスタント：14名	*学内公募

設 問 項 目	大学名／調査館	26. LCにおける人的支援： 学生スタッフ (業務管理・運用体制)	27. LCにおける人的支援： 学生スタッフ (トレーニング方法・時間等)	28. LCにおけるコンテンツ提供： 利用できる学習用コンテンツ	29. LCにおけるサービス： 教員・事務・学生等との連携	30. LCにお けるサービ ス：その他、 LCでの特徴 的な機能につ いて	31. LCの運営 について：LC の運営体制 担当者・担当係 (人数)	32. LCの運営について： 運用開始により新たに 発生した業務	33. LCの運営について： 当初計画と違った点	34. LCの運営について： 課題	35. LCの運営について： LCの設備面(設備) に対する自己 評価 (期待どおりだった点)	37. LCの自己評価 について：LC の設備面(設備) に対する自己 評価 (期待どおりだった点)
1	北海道大学 本館			■シラバス本体 ■新着図書	■事務(事務組織)との連携 (内容→ 人事課による職員研修をリテラシールームで開催) ■その他の学内組織との連携 (内容→ アカデミック・サポートセンターとのスキルアップセミナーをオープンエリア、リテラシールームで開催)		* 特に決まっていない。 * 利用支援課情報リテラシー担当 * 調査支援担当 * 閲覧担当 がそれぞれ行っている。	* プロジェクター等の貸出	* 当初は、オープンエリアには人的支援はおかない方針であり、参考図書のフロアの一角がオープンエリアだった。 * しかし、それでは面積が少ないこと、サイレントエリアとのゾーン分けがうまくいかなかったことから、新棟オープンから1年半後に、参考図書の書架をすべて撤去し、2階フロア全体をオープンエリアとした。 * その後、オープンエリアで「スキルアップセミナー」を開いたり、テーマ展示を実施するなど、少しずつオープンな学習空間のイメージを学生に浸透させるように努力している。 * 当初の計画になかったことから、学生スタッフなどの予算はない。 * 職員によるレファレンス支援等の場として検討中である。	* 人的支援がない。 * 学術的コミュニケーションの場として活動できていない。	* 職員によるレファレンス支援、学生による学習アドバイザーの設置を検討中。 * 学生スタッフについては、予算の確保と、図書館によるTAの雇用体制の確立などの課題がある。 * メディアコートでいくつかイベントや展示を開催しているが、少し遠慮から離れているので、オープンエリアも学術的コミュニケーションやディスカッションの場として授業で活用してもらおうよう、FD研修などでプロモーションを行っている。	* オープンエリアの拡張後は、学生の利用方法に変化が出てきた。 * ホワイトボードを使った自由なディスカッションが行われるようになった。
2	東北大学 本館	* 留学生コンシェルジュ：身分は事務補佐員。2013年度は、5～7、10～2月実施予定。レファレンスデスク近辺にて1名体制。外国人留学生や日本人学生向けにLCを含む図書館全体の利用方法や資料の探し方などの案内を中心に行う。その他レポート作成のセミナーも担当している。 * TA：2013年度は、10月～2月実施予定。レファレンスデスク近辺にて1名体制。当該科目の履修生や学部学生向けにレポート作成の要領や方法などの指導を中心に行う。 * 業務管理は、両方とも参考調査係が行う。	* 留学生コンシェルジュ：担当係(参考調査係)から、業務で必要となるデータベース等による情報探索および図書館の利用方法、資料の配置等一通りの仕事内容等の説明を約5時間、デスクでの利用者対応実習を約15時間。 合計20時間程度。 * TA：担当係(参考調査係)から、授業の流れ、授業資料の説明を1コマ辺り1時間、デスクでの利用者対応実習を約1時間。	■特徴的なデジタルコンテンツ ①(コンテンツ名:「『レポート力』アップのための情報探索入門」2013 コンテンツ内容:レポート作成に掛かるテキスト) http://tulibrary.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?cat_id=3 ②(コンテンツ名:東北大学生のための情報探索の基礎知識:基礎編、2010 コンテンツ内容:情報探索用テキスト:基礎編、社会科学編、自然科学編ほか) http://tulibrary.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?content_id=26 ③(コンテンツ名:Guide to Academic Information Search for Students of Tohoku University / Natural Science 2010 コンテンツ内容:レポート作成に掛かるテキスト) http://tulibrary.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?content_id=29 ④(コンテンツ名:ブクログ 東北大学附属図書館「『レポート力』アップのための情報探索入門」 コンテンツ内容:レポート・論文作成に掛かる図書を紹介) http://booklog.jp/users/tohokulib ■シラバス本体 ■教員著作本・教員推薦図書類 ■常設の企画展示(図書等)(企画名:学生選書企画) ■その他(英語多読法テキスト、英語TOEIC・TOEFLの対策本、震災ライブラリー、視聴覚資料、学内刊行物、英語多読法テキストレビュー、留学生用図書レビュー)	■教員(教員組織)との連携 (内容→ 教員による英語多読法のテキストの選書・レベル分け等) ■事務(事務組織)との連携 (内容→ 広報課、公開講座「リベラルアーツサロン」の開催、人事課、教職員向け「英語多読法研修」の開催) ■学生(学生組織)との連携 (内容→ イベント「サークル展示」、「Evernote講習会」の開催) ■その他の学内組織との連携 (内容→ グローバル人材育成PJから英語TOEIC・TOEFLの対策本の受贈) ■授業との連携 (内容→ 授業・基礎ゼミの実施、英語多読法授業履修者によるテキストレビュー作成と掲示、レポートカアップ授業TAが授業時間外支援)		* 短時間PCワークエリア&長時間PCワークエリア: 参考調査係(3名) * グループボックスエリア&フレキシブルワークエリア: 閲覧第一係(9名)	* エリア内のイベント予約受付 * 座席利用申請受付 * 座席確保 * 学生スタッフ(ピアサポーター)の指導・管理など	* LC計画時には、施設・設備計画が主で、運用により発生する業務等の運営計画は、特に検討してなかった。	* LCについては、当初の想定外の利用(長時間(9:00-17:00)の占有や土日のイベント開催、学習ではないサークル打合せでの利用など)があった。 * 学生スタッフ(留学生コンシェルジュ)については、現在は留学生施策充実経費に毎年申請し、採択された経費によって採用しているため、採用が不安定。経費の募集自体が7月頃にあることもあり、図書館内予算を立替なければ、4月からの採用が難しい。 * 外国人留学生と留学を目指す日本人学生双方のサービスを展開するための方策を模索中である。	* 運用内規や申請書レベルで、制限(利用内容や利用時間等)を設けた。 * ポスターやホームページでの案内、留学生や教員へのチラシの配付などにより、利用者への周知を行っている。	* 複数個別学習(友人と一緒に座るが別々に学習)、グループ学習(グループで討議や一体学習)として利用されている。 * フレキシブルワークエリアでは、学生主催イベント利用も増えている。 * PC席では、全席にヘッドホンを用意したが、良く利用されている。
3	筑波大学 中央図書館 本館	* 非常勤職員として採用	* ライティング支援に関する外部講師によるセミナー(年1回2時間半)、ラーニング・アドバイザー同士のミーティング及び勉強会(月1回2時間)	■特徴的なデジタルコンテンツ (コンテンツ名:学習支援の本棚 コンテンツ内容:ラーニング・アドバイザーによる、学習に役立つ図書の紹介) ■シラバス本体 ■シラバス掲載図書 ■その他(「アカデミックスキルズ図書」の本棚(大学生として学習・研究を行う上で必要なスキルについての図書を学生サポートデスク付近に設置))	■教員(教員組織)との連携 (内容→ ライティング支援連続セミナー) ■学生(学生組織)との連携 (内容→ プレゼンひろば(IBM MI=Monday Morning Institute, 大学院生等による「社プレゼン」))		* 学習支援推進ワーキング・グループ(8名)	* ラーニング・アドバイザーの勤務時間管理やLC関連イベントの企画運営等		* ワーキンググループ体制での運営から定常業務体制への移行	* ワーキンググループによる移行案の検討	* 既存の環境と調和し、境界を意識することなく誰もが出入りできるというメリットを生かし、従来の通路にホワイトボード・展示用書架等を配置してプレゼンテーションエリアとして活用している。
4	千葉大学 アカデミック リンク	* ALSA-LSIは「参加する学習」プロジェクト * ALSA-TTはオンライン・クラスルームプロジェクト * ALSA-GSIは「新しい図書館員」プロジェクトが業務管理を行っている。	* 学修支援は学期ごとに2回の振り返り会を行い、対応事例を共有し全体の課題を明らかにして改善活動を意識化、明確化している。	■シラバス本体 ■教員著作本・教員推薦図書類 ■パスファインダー ■新着図書 ■常設の企画展示(図書等) ■その他(パスファインダー掲載図書)	■教員(教員組織)との連携 (内容→ 1210あかりんアワーでの「教員が研究の楽しさを語る」登壇、オフィスアワー@アカデミック・リンク) ■事務(事務組織)との連携 (内容→ 1210あかりんアワーでの「外国に暮らす」「ブックトーク」の登壇) ■授業との連携 (内容→ 授業資料ナビゲータ)	見せる書架 (ブックツリー)	* アカデミック・リンク・センター教員と図書館職員がチームとなり、プロジェクトを担当している。 * 7つのプロジェクトに図書系常勤職員(14名)が関わっている。	* Student Assistantの教育、勤務管理など	* 利用者の状況を見て、開設時間を午後にずらし6時まで対応することにした。	* 静かな環境を求める声もある。	* 完全に静寂な空間の確保を行う改修工事を予定している。	* 特に利用指導はしていないが、学生たちは可動式の机、椅子、ホワイトボードを自由に使って学修している。

設 問 項 目	大学名／調査館	26. LCにおける人的支援：学生スタッフ（業務管理・運用体制）	27. LCにおける人的支援：学生スタッフ（トレーニング方法・時間等）	28. LCにおけるコンテンツ提供：利用できる学習用コンテンツ	29. LCにおけるサービス：教員・事務・学生等との連携	30. LCにおけるサービス：その他、LCでの特徴的な機能について	31. LCの運営について：LCの運営体制担当者・担当係（人数）	32. LCの運営について：運用開始により新たに発生した業務	33. LCの運営について：当初計画と違った点	34. LCの運営について：課題	35. LCの運営について：対処	37. LCの自己評価について：LCの設備面（設備）に対する自己評価（期待どおりだった点）
5	新潟大学 中央図書館	* 図書館学生サポーターを中心としたグループが勤務シフトを組んで業務を行い、図書館で作成した出勤表に記入押印してもらっている。	* 情報調査係による情報検索や電子ジャーナル利用方法についてのレクチャーを受講してもらう（1時間程度）	■特徴的なデジタルコンテンツ：（コンテンツ名：ALC NetAcademy2 コンテンツ内容：英語学習教材） ■シラバス本体 ■その他（外国語学習用図書、視聴覚資料）	■教員（教員組織）との連携（内容→ 大学教育機能開発センターと全学FD開催） * 教育支援センター外国語部門とFL-SALCを連携して外国語の自律学修を支援 * 図書館職員が図書館を使う授業について、場所や機器準備など相談にあたる「授業コンシェルジュ」 ■事務（事務組織）との連携（内容→ FL-SALC運用に関わる人的支援（教務課） * グローバル人材育成事業に係わる経費の配分（国際課） * 館内展示、館内見学企画（広報室） ■学生（学生組織）との連携（内容→ 図書館学生サポーターを中心とした学生・大学院生がラーニングアドバイザー、書架整理業務を担当） * 留学生チューターによる英語および初修外国語（フランス語、ドイツ語等）のチャットをおよそ月40回実施 * 図書館学生サポーターと図書館が協働してイベントを実施 * 館内紹介、図書館利用ガイダンス用（予定）DVDの作成 ■授業との連携（内容→ 情報リテラシー教育、図書館を利用した授業、パスファインダー作成）		* 情報サービス係 * 情報調査係（11名）	* 施設予約の管理対応（学生の利用予約、授業等での予約） * FL-SALCとの連携（企画の運用サポート、環境改善）	* 学外の方も気軽に立ち寄ることのできるラウンジの機能を備えたインフォメーションラウンジ（およそ1,100㎡）が飲食可能かつ無線LANの設置などLC同様の環境を備えていることから、第2のLC的な使われ方をしている。 * 可動式の机、椅子の配置について職員が考えていた以上に自由にくみかえてエリアを利用している。	* 授業、学習等によく使われているので、今後もより広く利用されるように利用の幅、裾野を広げる。		* 学習の様々な利用目的に合わせた部屋やスペースは図書館の意図したとおり使用されている。
6	お茶の水女子大学	* 情報基盤センターが対応	* 新人が経験者と一緒に1勤務（4時間）を行い、一通りの流れをつかむ。 * ごく簡易なマニュアルがあるとのこと。	■特徴的なデジタルコンテンツ（コンテンツ内容：語学学習、統計ソフト、画像処理ソフト） ■シラバス本体(web経由) ■常設の企画展示（図書等）（企画名：数ヶ月ごとに展示替えをしている） ■貴重図書、歴史資料類（資料名：和算資料、外邦図、大学資料など。(Web経由)） ■大学沿革史料（Web経由） ■その他（PCマニュアル類、キャリアカフェ文庫（学生が選んだくつろぎ用図書））	■教員（教員組織）との連携（内容→ ピアノコンサート） ■学生（学生組織）との連携（内容→ 学園祭でのイベントや学生ボランティア団体との連携） ■その他の学内組織との連携（内容→ 学生・キャリア支援センターが主催する就活、キャリアサポーターの場として活用されている） ■授業との連携（内容→ 教員の依頼を受け、授業やゼミ単位で図書館オーダーメイド講習会を実施）	学生の自主的な成果発表の場	* キャリアカフェや物品の予約があった場合、情報サービス係の常勤2名が対応している。	* キャリアカフェ予約受付 * 物品貸出（パーティション、プロジェクター、スクリーン、マイク）	* 現在は、LAの人柄やスキルに依存するところが大きく、それぞれのスキルが引き継がれていない。体験談や特殊な技術などは、研修などですべてをまかなうのは困難。対応マニュアルを明文化しているわけではないため、実質、アドバイザー本人の裁量によるところが大きい。 * 授業の課題の質問をどこまで受け付けるべきか。課題に関する質問には答えず担当教員に直接問い合わせるようにという簡単な方針はあるものの、受けた質問が課題の答えそのものなのかどうかの判断がとても難しい。	* 勤務時に分からないことやトラブルが発生した場合、ITセンターに電話連絡。 * 日々の業務連絡としてmoodleを利用し、作業報告をLA、ITセンターで情報共有。	* 約70台のPCが、よく利用されていること。 * 最近は自分のPCやノートPC貸出ロッカーのものを持ち込んで利用する人も多くなったこと。（ノート型の需要が高いのか？） * キャリアカフェのテーブルの利用も多いこと。	
7	静岡大学 静岡本館			■その他の学内組織との連携（内容→ 大学教育センターによる学習サポート事業）			* 利用サービス係（5名）	* 施設設備の貸出・予約	* 予想以上によく利用されたため、机の追加を行った。	* 授業期間には座席や貸出PC（12台）が不足する。		* ファミレス風ブースの人気が高い。
8	名古屋大学 中央図書館	* 参考調査掛が担当	* 1人あたり12～17時間。 業務説明、館内施設・サービス説明、資料探索関連の図書館開催講習会の受講、高等教育研究センター講師によるライティング関連講習会の受講、過去の対応事例をもとにした練習問題の自習、図書館利用法に関するDVD視聴、毎勤務時に送信する業務報告メールに対する個別指導など	■シラバス本体 ■パスファインダー ■新着図書 ■常設の企画展示（図書等）（企画名：ミニ展示 内容は2か月程で入れ替え） ■その他（ライティング関連図書）	■その他の学内組織との連携（内容→ 学生相談総合センター）	* ライティングサポートエリアにアカデミックライティング指導用の専用ブースを設置している。	* サポートスタッフ担当：参考調査掛（4名） * 施設・設備担当：閲覧掛（9名）	* PC管理 * サポートスタッフの雇用管理、業務管理、トレーニング	* 当初はTA配置を希望したが、大学の規定により雇用できなかった。そのため、サポートスタッフを事務補佐員として雇用している。	* ラーニング・コモンズを設置するにあたって、担当職員の追加があったわけではないので、管理、運営を担当する職員に業務負荷がかかっている。 * ラーニング・コモンズにおける学習支援を企画できる知識、スキルを持った職員の不在。	* 情報サービス課内の関係掛業務の見直し。 * 学習支援に比重を置いた組織改編の検討。 * 金沢大学、静岡大学との学習支援促進のための三大学連携事業での職員の育成。	* ほぼ想定した学習が行われている。（ライティングサポートエリアを除く）

設 問 項 目	大学名／調査館	26. LCにおける人的支援：学生スタッフ（業務管理・運用体制）	27. LCにおける人的支援：学生スタッフ（トレーニング方法・時間等）	28. LCにおけるコンテンツ提供：利用できる学習用コンテンツ	29. LCにおけるサービス：教員・事務・学生等との連携	30. LCにおけるサービス：その他、LCでの特徴的な機能について	31. LCの運営について：LCの運営体制担当者・担当係（人数）	32. LCの運営について：運用開始により新たに発生した業務	33. LCの運営について：当初計画と違った点	34. LCの運営について：課題	35. LCの運営について：対応処	37. LCの自己評価について：LCの設備面（設備）に対する自己評価（期待どおりだった点）
9	金沢大学中央図書館			■シラバス本体 ■シラバス掲載図書 ■新着図書	■教員（教員組織）との連携（内容→ ヒブリオバトルの開催）		*中央図書館係（6名）	*管理、予約、使い方の指導		*オープンスペースのエリア予約対応が煩雑	*開館前の準備を心がけている。	*可動机、ホワイトボード
10	大阪大学総合図書館	*採用手続き：庶務係、業務管理：参考調査担当	*採用時に、オリエンテーション（業務内容や電子リソースの使用方法等の簡単な説明）を実施。 *参考調査担当職員によるオン・ザ・ジョブトレーニングを随時実施。 *また、メーリング・リスト等を活用した情報共有によりレベルアップを図っている。	■シラバス掲載図書 ■バスファインダー ■その他（ キャリア支援図書 ）	■教員（教員組織）との連携（内容→ 「レポートの書き方講座」等を教員、TAとの協働により開催） ■学生（学生組織）との連携（内容→ 論文検索講習会をTAとの協働により開催） ■授業との連携（内容→ 夏季集中講義「アカデミック・スキルズ」の1コマを図書館職員が担当し、文献収集方法等を講義）	*学生グループとの共催によるイベントの開催 *教育研究プログラム説明会や学生による各種イベントの場として提供	*情報ナビゲート班 サービス企画担当（1名） *情報ナビゲート班 参考調査担当（2名）	*教員、TAとの協働によるライティング指導講習会等の企画・実施 *TA関連業務 *授業、講習会、イベント等の利用申請受付 *貸出用備品の貸出・返却処理		*共通教育担当部署や国際交流担当部署等学内関係組織との組織的な連携の実現 *学習支援担当職員の養成	*現在LC・GCでの学習支援に協力いただいている教員等と、組織的連携による学習支援のあり方等について意見交換を行った上で、学内関係組織と連携に向けた協議を進めて行きたいと考える。 *若手職員を中心としたWGによって学習支援活動を展開することにより、今後の活動を担う職員の養成を図る必要がある。	*組み合わせ可能な可動式テーブルや卓上型及び両面型ホワイトボードが学生に好評。
				■特徴的なデジタルコンテンツ（コンテンツ名：Library PressDisplay コンテンツ内容： 世界各国の新聞データベース ）		*留学生TA等による多言語・異文化学習イベントの開催						*組み合わせ可能な可動式テーブルや壁面ホワイトボード及び幅90cmの小さ目のホワイトボードが学生に好評。
11	広島大学中央図書館			■新着図書	■その他の学内組織との連携（内容→ 情報メディア教育研究センター パソコン利用）（ライティングセンター ライティング支援）		*主にライティングセンター主担当（3名） *施設管理：フロアサービス主担当（4名）+総務主担当主査（1名）	*グループスペースの授業予約運用 *グループスペース予約時掲示（室前と机上、全予約時の代替空間確保と案内、全予約時に忘れると学生を追い出すことになるので確実実施に非常に神経を使っている） *グループスペースのホワイトボード清掃（非常に汚れるため、清掃契約頻度以上に実施） *ホワイトボードマーカインク交換、カートリッジ補填（予想をはるかに超えた頻度） *ほとんどの端末が情報メディア教育研究センター端末であり、学生証(ICカード)のタッチ認証ため、従前にほとんど無かった学生証の忘れ物が頻発し連絡にかなり時間をとられている。 *時間外開館時の情報メディア教育研究センタープリンター用紙補給や故障対応。				*ゆったり空間で長時間利用に備えた椅子を有するスタディスペースは利用者で早く満まる。 *グループスペースは使用目的を限定せず、手続きも不要なので、非常に人気がある。

設 問 項 目	大学名／調査館	26. LCにおける人的支援：学生スタッフ（業務管理・運用体制）	27. LCにおける人的支援：学生スタッフ（トレーニング方法・時間等）	28. LCにおけるコンテンツ提供：利用できる学習用コンテンツ	29. LCにおけるサービス：教員・事務・学生等との連携	30. LCにおけるサービス：その他、LCでの特徴的な機能について	31. LCの運営について：LCの運営体制担当者・担当係（人数）	32. LCの運営について：運用開始により新たに発生した業務	33. LCの運営について：当初計画と違った点	34. LCの運営について：課題	35. LCの運営について：対処	37. LCの自己評価について：LCの設備面（設備）に対する自己評価（期待どおりだった点）
12	九州大学 中央図書館				■教員（教員組織）との連携 （内容→オープンキャンパスでの部局イベントの実施） ■事務（事務組織）との連携 （内容→オープンキャンパスでの国際部等の各種イベント実施） ■学生（学生組織）との連携 （内容→就活支援学生団体による就活相談ブースの設置、学生団体による研究発表会開催など） ■授業との連携 （内容→特定の教員が授業を実施、PCを使用したオンデマンド講習の実施、公開授業としてのピリオバトル開催等）		*サービス企画係 *資料サービス係（9名）	*ホワイトボードのメーカー・イレイサーの交換		*参考図書の見覧スペースを兼ねているため、辞書・事典類を利用する利用者にとっては騒々しく感じられるようである。		*学生は用途に応じてテーブル・椅子を自由にアレンジして使用している。
	九州大学 嘸鳴天空広場			■シラバス掲載図書 ■教員著作本・教員推薦図書類 ■新書図書	■授業との連携 （内容→21世紀プログラム課程コアセミナーにおける「ピリオバトル」）		*伊都地区図書課職員全員（13名）	*「嘸鳴天空広場Q-Commons」に係る全ての業務（図書館外に新設されたため）		*離れた場所にあるため、図書館の業務と並行して13名の職員で当番体制を組むのが厳しい状況である。		*多くの学生に利用されている。
13	国際基督教大学	*一般的な勤務管理（シフト体制はスタッフ内部で調整）	*チューター：それぞれ論文は書けるレベルの者を採用。面接時に論文を提出させる。 *年2回のスキルアップワークショップを実施（講師：教員や外部のライティング専門家）	■特徴的なデジタルコンテンツ（コンテンツ名：？ コンテンツ内容：？） ■シラバス本体 ■パスファインダー ■その他（ライティング指導上の参考書籍（“論文の書き方”類）、PCマニュアル）	■教員（教員組織）との連携 （内容→ライティングサポートの企画運営） ■事務（事務組織）との連携 （内容→グローバル人材育成担当部署→英文ライティングをテーマにカリキュラム構築への反映（「Wコース」〈wiswritingのw〉）、協力してチューター雇用） ■学生（学生組織）との連携 （内容→アカデミックプランニングセンター〈教養課程の支援を担当〉が組織したピアアドバイザ組織が、図書館のリニューアルに際しての企画立案に意見提供） ■その他の学内組織との連携 （内容→リテラシー教育に際し、就職支援担当部署との連携で日経テレコンセミナーを企画・実施） ■授業との連携 （内容→事務との連携機を参照のこと）	*ライティングサポートにおいては、論文執筆のほか、英文QV作成、研究計画書作成なども支援。 *コピー問題等の研究倫理面の指導も行う。	*パブリックサービスグループ（課相当）のレファレンスサービスセンター（係相当）（4名）	*PC利用サポート *職員全員が分担して担当する講習会実施	*当初、電子資料向け、紙媒体資料向けの2つのレファレンスカウンターを設けたが、のちに統合。	*飲食対応	*検討中	*思った通りのものができた。狙い通り活用されている。
14	同志社大学	*アカデミックインストラクター等	*アカデミックインストラクターからの指導 *10回の講習会を受講（協調学習の方法や学習科学など学習支援に関する内容） ※TA制度（大学院生の正果の授業支援）の方では、もともた講習がない、こちらは正果の「授業外学習の支援」に焦点をあてたプログラムであるが、授業支援にも有用なものであるので、TA研修の声があがってくるように研究科長会議等で仕掛ける予定である。	■大学沿革史料（デジタルサイネージで自校教育用画像を流している）	■事務（事務組織）との連携 （内容→図書館、情報支援課、国際センター、国際課、学生支援センター、キャリアセンター） ■学生（学生組織）との連携 （内容→行事などの時にボランティアを募集することがある）	*壁はゼロであり、死角がないように設計しているため、他人の学習行為が「情報」になつて伝わる機能がいきている。	教育支援機構学習支援・教育開発センター 委託業者	*国内学生が引っ込み思案で、留学生と積極的に交わらないので、仕掛けのイベント等が必要。 *仕掛ける主体の国際センターが勉強不足なので、他大学の活動の視察に行かせる予定。		*ありすぎて書けない。	*ありすぎて書けない。 *3月に外部評価委員に来てもらい、問題点を指摘してもらった予定。委員は高等教育や学習科学の専門家であって、図書館情報学等の領域の研究者に依頼する予定は、今後も含め全くない。 *運営の評価と指標をまとめるのが課題となる。定量系はアンケートを次年度全学的に実施予定だが、定性系で、どのようなフォーカスグループ・インタビューにするかなどはまだ検討中。	*壁がなく、広いオープンスペースにしたことが、予想以上に学習のコミュニティ形成に効果があることを確信した。 *書架の並ぶ空間の一部にこの種のスペースが存在しても、コミュニティ形成は難しいであろう。

設 問 項 目	大学名／調査館	38. LCの自己評価について：LCの設備面(設備)に対する自己評価(期待とは違った点)	39. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待どおりだった点)	40. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待とは違った点)	41. LCの自己評価について：LC利用数と自己評価等	42. LCの自己評価について：人的支援の利用数と自己評価等	43. LCの自己評価について：PC利用数と自己評価等	44. LCの自己評価について：コンテンツの利用数と自己評価等	45. LCの自己評価：LCに必要なと思われる設備・支援等	57. その他 LC整備や活動での成果、ノウハウ、苦労、記載できなかった事項、今後の展開予定(計画を含む)等
1	北海道大学本館	＊静かな学習環境を好む学生も多いこと。サイレントエリアのゾーニングについては何回かの試行錯誤があった。 ＊現状では、2階がオープンエリア(ディスカッション可、PC可、資料なし)、3階閲覧室が資料あり、PC可、私語不可、4.5階閲覧室はPC不可、私語不可となっており、ようやく学生からの騒音に関する苦情も減り、このゾーニングで落ち着いたようである。 ＊メディアコートには、ベンチを設置しているが、床面が暖房つきのカーペットであるため、床に直接座ってベンチを机としてグループ学習する学生が多く見受けられるようになった。 飲食も可能であるため、よりリラックスした学習空間となった。この使い方は想定外であった。		＊当初、予定していなかった床がフリーアクセスになっていない場所までLCのエリアを拡大したので、床から配線できない場所が出てしまった。 ＊メディアコートは、大きな吹き抜け空間であるため、昼間は照明不要の明るさが保たれた。一方、冬は寒く、雪が積もると結露が落ちてきたので、一時利用停止とした。				＊学内の学生用端末設置場所としては、北図書館と本館が突出した高利用実績がある。 (今回の再生事業において本館では10台程度→71台に増加)	＊大学ごとにLCのあり方は特徴や違いがあって当然と考えている。 ＊北大の場合は、初年次学生を対象とし理系学部の多いエリアにある北図書館と、高学年・院生が多く文系学部の多いエリアにある本館とでは、おのずと役割分担がある。それぞれのニーズにあった学習空間やサポートが必要であり、そのためには各図書館・室のミッションを明確にし、他部署との連携、学生との協働による意見を取り入れながら、全学の図書館を構築していく必要があると考えている。	＊2013年度補正予算で北図書館を増築予定(現在入札が成立せず工事は未定)。 ＊北図書館は初年次学生を主たる利用者とし、地理的にも全学教育部、国際本部とも近いため、学務部、国際本部等とも連携してアクティブラーニングフロアやグローバル人材育成フロアを計画している。
2	東北大学本館	＊カーペット色でエリアや動線を分けることを期待したが、カーペット色が地味なためか、目立っていない。 ＊ノートPC利用者用に、OA床に電源を用意したが、可動式テーブル・椅子があるエリアでは、電源ケーブルが結構邪魔。			＊入館者自体の増加はないが、LC自体の利用は増加した。特にPCエリアは満席状態であり、イベント数も増えた。 ＊アクティブラーニングエリア(フレキシブルワークエリア、グループボックスエリア)も、当初は一人での閲覧利用が多かったが、現在は想定通りのグループ利用として活用されている。特に試験期間などに利用が増える傾向にある。 ＊キャンパス内の学生の数(約6,000名)に対して、LCの席数(174席)が少ないことは今後の検討課題である。	＊当初の「学術情報資源の利用」や「論文作成の指導」、「IT技術」に関するサポートを行うという面からすれば、支援体制の達成度は7割程度と評価している。 ＊人件費もTA経費や留学生施策充実経費を獲得して採用している。 ＊多言語で日本人学生・外国人留学生問わず対応できている面は、学内のにも評価されている。 ＊利用数「留学生コンシェルジュ」については、2013年11月からの6ヶ月で約400件対応。平均で3.3件/1日、今後どのように広めるかは今後の検討課題である。	＊LCにデスクトップPCを75台用意しているが、11:00-15:00は満席状態である。 ＊開館時間14時間のうち、全台とも9時間程度は利用されているのではないかと評価している。 ＊PC台数の不足、デスクトップPCはスペース占有や有線ケーブル等の配線課題もあり、無線LANによる貸出用ノートPC等での対応は今後の検討課題である。	＊LCで提供しているコンテンツは、館内利用を想定したものが多いが、コンテンツの1つ、英語多読法テキストは、授業との連携もあり、館内閲覧はもとより貸出冊数も多いと評価している。(2012年度の開講数：19回、授業履修者：500名余り。貸出人数：4,722名、貸出冊数：11,375冊) ＊学習用コンテンツの整備はもとより、学習用コンテンツの利用を促進するナビゲーションコンテンツの充実も今後の検討課題である。	＊文科省の方針や大学のビジョンに沿った「グローバル化」をキーワードとした設備・支援が必要と考えている。 ＊海外留学に行く人のための学習支援(語学・文化等)エリア ＊外国人留学生向けの学習支援(語学・文化等)エリア ＊海外文化に興味がある人のためのエリアと関係コンテンツ ＊人的サポートの更なる充実：海外留学経験者や外国人留学生による人的サポート、ICT系分野、ライティング系のサポート ＊留学生課、国際交流課、グローバルラーニングセンター、国際交流センター、高等教育開発推進センター等との連携 ＊PCの増加。(デスクトップにはスペース的制限があり、貸出用PCで対応) ＊学生が机・椅子等を自由に利用しながらディスカッションできるようなラウンジ的なスペースの増加。	＊文科省の答申や大学のビジョンに沿って、「グローバル化」をキーワードとしたLCの新たな展開を、学内の留学生課や国際交流センター、グローバルラーニングセンター等と検討中。 ＊2014年度中の整備に向けて現在改修工事中。(約750㎡)
3	筑波大学中央図書館本館	＊耐震改修工事と並行しての設置となったため、既存の書架や什器等の配置換えの制約上、従来のフロア配置が混合された状況であり、フロア全面の活用ができているとは言い難い状況。	＊LC設置以前に耐震改修工事で整備した、透明ガラス張りやオープンスペースのグループ学習スペースをコラボエリアとして整備したことで、他者の学びが見え、学びのモチベーションが高まる空間が提供できている。	＊LCとして独立した空間ではないため、「会話もできる場」としての活用が不十分で、LCとは別に設置した「スタディ・スペース」(静かな学習空間)との差別化が図れていない。		＊2012年度、学生サポートデスク質問件数 488件			＊グループ学習と個人学習の中間的な空間(会話が可能な賑やかな雰囲気)や学生が自由に構成可能なエリアをもっと増やしたい。 ＊学習サポートデスクの認知度向上のために、学生の自発的な利用を待つだけではなく、授業等との連携により強制的な利用を促進させる工夫も必要(とくに初年次学生)。 ＊LCでの中核的な学習支援活動を維持するためには継続的な教員との連携が可能な体制・制度作りも必要。	＊ラーニング・アドバイザーの活動については、図書館が想定した人的支援の他に、ラーニング・アドバイザー自身の発案による展示・学園祭企画(「Learning Adviser×Booklogの本棚」(書評で扱った図書の展示および利用者からの書評募集)「本の樹海」(図書館内でのオリエンタリング)等)を行っている。
4	千葉大学アカデミックリンク	＊利用者が多く、席が足りなくなった。	＊吹き抜けを持つ開放的な空間で人が集まりやすい。	＊階段の位置が分かりにくい。	＊2012年度附属図書館入館者数 516,825人。 ＊改修工事以前の2010年度と比較しても入館者数は増加している。	＊2012年度、学修支援の相談人数は277人。 ＊1人当たりの相談対応時間が長い。振り返り会を行うことで、利用者の動向などを活動に反映できている。	＊据え置き型なので、利用状況の統計などはとっていない。 ＊広く利用されていて、増やしてほしいという要望が出ている。	＊コンテンツ利用者数及び利用数の統計はとっていない。	＊現在の活発な利用状況を見て、改修工事の際に、ラーニング commons のエリアの増強を行う予定。	＊週2回、プレゼンテーションスペースで「1210あかりんアワー」というショートセミナーを行っている。 ＊教員が研究の楽しさを語る、ブックトーク、外国に暮らすなどをテーマに、2012年度は66回行い、延べ1600人が参加した。 ＊アカデミック・リンク・セミナーとして、教職員や図書館員向けのアカデミック・リンクに関する研修を行っている。2012年度は6回行い、363人が参加した。

設 問 項 目	大学名／調査館	38. LCの自己評価について：LCの設備面(設備)に対する自己評価(期待とは違った点)	39. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待どおりだった点)	40. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待とは違った点)	41. LCの自己評価について：LC利用数と自己評価等	42. LCの自己評価について：人的支援の利用数と自己評価等	43. LCの自己評価について：PC利用数と自己評価等	44. LCの自己評価について：コンテンツの利用数と自己評価等	45. LCの自己評価：LCに必要と思われる設備・支援等	57. その他 LC整備や活動での成果、ノウハウ、苦労、記載できなかった事項、今後の展開予定(計画中を含む)等
5	新潟大学 中央図書館		＊明るく開放的な学習空間は、利用者増加の一因となっている。			＊およそ1,200人。	＊LC 41台 ＊ICT講義室 61台 ＊貸出ノートPC 30台		＊教育組織との連携協力による、学生の能動的学習を支援するしくみ。 ＊学生による学習支援サポーターの資質を向上させるしくみや雇用の継続。 ＊学生が自由に学習空間を作れるように、可動式の机や椅子の増設やノートパソコンや無線LAN環境といった施設面での充実。	＊教員がラーニング・コモンズを利用した授業を行う際に、教員からの相談に応じて場所や使い方の提案を行う業務「授業コンシェルジュ」を行っている。 ＊来年度から授業連携の一つとして、教員と協力して教養科目の1年生向授業のパスファインダーを作成し、図書館コンテンツを活用した自律学習の促進を図る予定。 ＊文部科学省の「大学図書館における先進的な取り組みの実践例」としてWeb上で公開予定である。 ＊能動的な学習支援に先進的に取り組む各大学からの報告をふまえ、今後の大学図書館の役割について考察することを目的として新潟大学附属図書館セミナー「ラーニング・コモンズの明日を紡ぐ～アクティブ・ラーニングを支援する新図書館モデル構想」を開催(2013.11.19)予定。 ＊学生と館長の懇談会「館長と語ろう」などを開催し、利用者のニーズを調査している。
6	お茶の水女子大学	＊グループ学習のときなど、少し騒がしいことがある。イベントの主催者が、他の利用者への影響を気に掛けることがある。(壁が無いことの弊害かもしれない)ただし、現在のところ苦情は受けていない。 ＊附属高校生も利用が多いのだが、お菓子を食ったりする生徒が見受けられる。 ＊居心地の良い椅子に長時間眠っている人がいる。 ＊席と席が近いため、荷物を隣の席に置く人が多い点。(サイドワゴンを置いているが利用が少ない。)	＊壁を取り払ったため、見通しがよく、セキュリティ上安心なこと。 ＊外から利用している姿がよく見え、混雑状況が分かる上、集客効果もあること。	＊壁がないため、時として、話し声が気になる場合があること。	＊時期による。 ＊授業期間中：9割程度 ＊授業期間外：2割程度	＊学習サポートにまで至っていない。	＊最近の平日14～16時の利用者数：平均100人。 ＊PCは66台あるため、この時間帯に1台あたり1.5人使用したことになる。 ＊よく使われており、今後も維持拡大を図りたい。	＊人的サポートは必須である。現状は大学院生によるパソコン回りの指導が中心であるが、しかるべきスキルを研修により身に蓄け、ライティング指導なども行っていきたい。 ＊グループ学習室があれば、もっと多様な利用者のニーズにこたえられるであろう。 ＊図書館員による、図書館で利用できるツールの講習会、教員との連携授業などができる教室があればと考える。	＊これまでの活動の成果等は、LISAブログ内でも報告しています。 http://ochadailisa.blog32.fc2.com/ ＊今後の展開については、新図書館構想ワーキンググループ(メンバーに教員を含む)で検討中です。	
7	静岡大学 静岡本館				＊入室者数の統計をとっていないが、予想以上に使われている。		＊2012年度は4,220件(1回3時間までで、利用延長を含まない件数。) ＊1日平均12.5件。用意している貸出PCの台数は12台。 ＊授業期間はしばしば返却待ちになり、よく利用されていると評価している。			
8	名古屋大学 中央図書館	＊グループラーニングエリアでの可動式机があまり活用されなかった。 ＊ホワイトボードがあまり利用されなかった。 ＊ライティングサポートエリアは意図に反し、ライティングによる利用があまりされていない。	＊ゲートの正面にグループ学習スペースを設けたことで、ラーニング・コモンズが認知され利用されるようになっていく。		＊H23 着席率 47.5%(15:30時点平均) ＊H24 着席率 47.7%(15:30時点平均) ＊評価：試験期など最も利用が多い時には、着席率が70%を超える。非常に良く利用されている。	＊H23 573件 ＊H24 692件 ＊評価：サポート件数は着実に増加し、内容もレポート作成などの割合が少しずつ増加している。	＊H23 稼働率(15:30時点平均 全館) 71.2% ログイン数 96,736人(全館) ＊H24 稼働率(15:30時点平均 全館) 68% ログイン数 85,419人(全館) ＊評価：設置PCの利用は少し減っているが、無線LANのアクセス数は全館的に増加している。持ち込みPCの利用が増加しているものと思われる。	＊人的サポートは待っているだけではなく、講習会、ワークショップなどの企画を積極的に行っていくことも必要だと思う。 ＊ITサポートは、学内関連組織(情報基盤センター)と連携して行えると良い。	＊アクティブラーニング推進の場として、ラーニング・コモンズが期待されているが、図書館だけでは実現は困難ではないか。 ＊情報リテラシーを含めて、教員との連携、授業との連携が鍵となると思われる。	

設 問 項 目	大学名／調査館	38. LCの自己評価について：LCの設備面(設備)に対する自己評価(期待とは違った点)	39. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待どおりだった点)	40. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待とは違った点)	41. LCの自己評価について：LC利用数と自己評価等	42. LCの自己評価について：人的支援の利用数と自己評価等	43. LCの自己評価について：PC利用数と自己評価等	44. LCの自己評価について：コンテンツの利用数と自己評価等	45. LCの自己評価：LCに必要なと思われる設備・支援等	57. その他 LC整備や活動での成果、ノウハウ、苦労、記載できなかった事項、今後の展開予定(計画を含む)等
9	金沢大学 中央図書館		* 遮音	* 換気、空調					* 教員のサポート	
10	大阪大学 総合図書館	* 座席が足りないという要望があり、座席を増やす。 * ホワイトボードの数が少ない、小さ目のホワイトボードがほしい、といった要望あり。	* 4つのゾーンが、学習スタイルに合わせて利用されている。 * また、B棟2～4階を、2階：ラーニング・ commons、3階：端末ゾーン、4階：サイレントゾーンと、フロアごとに利用目的に合わせたゾーニングも好評。		* LC設置後、入館者数が急増し、設置前の平成20年度約55万人に比べ平成24年度には約82万人と約1.5倍に増加した。平成21年度から開館時間を延長したことも増加要因の一つだが、主な要因は、LC設置により、それまであまり図書館を利用しなかった学生が、LCの利用を目的として図書館に来るようになったためと思われる。 * LC・GCとも、開設以降、年間を通じて非常によく利用されており、特に試験期には過密状態となり、席を確保できない学生も多い。	* TA利用対応件数 H24：1,175件（TA業務全体の件数） * TA業務全体として見た場合は、1日平均約7.3（勤務日数161日）となっているが、学習相談が業務全体に占める割合は比較的低いため、もっと相談しやすい環境を整える等の工夫が必要と思われる。	* 貸出用PC貸出回数 H24：10,769回（貸出用ノートPC計33台：LC開設時 * Windows20台、Mac4台整備、GC開設時にWindows9台追加） * 1日平均約32.2回（開館日数334日）の貸出があり、授業期には、貸出用PCが全部貸出されて出払ってしまうことも多く、よく利用されている。	* 利用数は不明だが、LCの隣接したエリアに、パスファインダー、シラバス掲載図書、キャリア支援図書、参考図書等が配置されており、書庫内の研究用図書にもアクセスしやすいことは、とても便利であると思われる。	* ある程度の広さを持ったオープンスペースと、学習スタイルに合わせたゾーン分け。 * 組み合わせ自由で、移動可能なテーブルと椅子（グループ間のスペースを十分取れるようなゆとりとした配置が望ましい）。 * 利用者数に応じた座席の確保。 * 想定されるグループ数に応じた ホワイトボード（壁面や柱面を利用したもの） 。 * 貸出用PC、貸出用プロジェクタ、無線LAN設備、防犯カメラ及びモニター。 * 図書館職員やTA等による人的支援。 * 同一エリア内でなくても、隣接したエリアに、パスファインダー、シラバス掲載図書、キャリア支援図書、参考図書等の配置が望ましい。 * 教員組織等、学内関係組織との組織的連携 。	* 今後、LC・GCともに、年間を通して利用が非常に多く、特に試験期には過密状態が続く状況にあるため、 収容効率の高い自動書庫を導入することで書架スペースを共同学習スペースに転用することにより、LC・GCスペースの一層の拡充を現在計画 中である。
		* 各種電子黒板の利用が少ない。	* LCが図書館の中央に位置していたのに対し、GCは図書館の外れにあり、雑居閲覧室であった改修時には利用者は多いとは言えない状況にあったため、どれだけ利用されるか心配したが、開設当初からLCよりもよく利用され、授業や学生のイベント等での利用も多い。 * また、LCに比べて留学生の利用も増えた。							
11	広島大学 中央図書館	* 予想以上に什器が汚れる、座面清掃等や交換などメンテナンスに予算を割かねばならない。 * 期待というより予想以上にコピー・プリンターそばのステープラー、パンチなどの用具が活用されている。	* スタディスペースはパーティションをもうけていないため、開放的な空間となっている。 * グループスペースをドアで仕切ったことは管理面（ノイズコントロールの点）で成功だった。	* グループスペースが狭いのは運用前からある程度認識していたが、予想以上に利用希望が多く、グループ閲覧室も満室の場合は学生から他に話せる場所は無いが質問が寄せられる。	* 増加(1.3～1.5倍：時期に応じ) * 「図書もネットソースも」と相乗利用向上を狙ったが、図書利用は横ばい。 * スタディスペースは午後になるとほぼ全テーブルセットがグループで埋まっている。 * 図書館でグループワークが可能との認識が高くなったためかスペース不足か、以前からあるグループ閲覧室の利用率も高くなり、予想外の波及効果があった。 * 時刻毎の在館者数を数えたことがあり、以前より開館時間間隙まで多く利用されていることが判明した。	* パソコン利用の案内については、情報メディア教育研究センタースタッフの対応があり安心して学生を案内できる。	* 学内端末利用率の4～5倍（常時ほぼ満席） * 学内で一番早く情報メディア教育研究センター端末からの印刷可能であるため図書館利用というより印刷するために朝一番で学生が押し寄せるようになった。 * 学内端末利用率は図書館がずば抜けて高い（学内にはほかにも端末設置空間が増えたが、図書館がとびぬけて利用率が高い、このことにより、学生はただ端末だけ提供すれば満足するのでは無く、きちんとした学習空間で学習したいという希望があることが明確となった）。	* 長時間座っても快適な椅子を有した一人当たりの単位空間の広い端末空間。 * 可動式ホワイトボードを多く有し、プレゼンテーション練習も可能な機器を提供できる協調型学習空間。 * 一つの空間にパソコン利用相談、レファレンスサービス、ライティング支援等の学修支援機能をサポートするカウンターをもつこと（まだ以上を可能にするための組織連携）。 * 未着手ではあるが、 授業情報のうち資料関連情報のネット提供 （シラバスとの連携、最終ゴールは電子コースリザーブシステムと思われる）。	●改修の場合、空間の用途転用が起きるため、あきらめる空間をプランニング段階早期に決定する 広島大学の場合は「参考書誌の書庫への大幅移動」「視聴覚資料の専用視聴スペースの消滅」であった。 ●空間改修の際にアクセシビリティ改善なども一緒に検討すると良い。 通常よりは予算が与えられる機会に、スロープ角度や机上面が上下するデスク、大型モニター導入など特別支援が必要な学生にも配慮して設計するとよい。広島大学の場合アクセシビリティセンターに相談した。 ●端末空間提供以上の学習支援サービス展開とその他の他組織との連携を模索する場合、学内教員や外部委員など、学識経験者を巻き込んで味方につけるなどの戦略を持つべきである。 ●協調型学習を実施している教員に味方につける、外部評価委員などに現状評価してもらうなど作戦を練って館員からのボトムアップ提案だけでなく学識経験者をきめた意見形成を行い、実現に向けて働きかけるほうが、効果が上がる。 ●要員確保を空間設計と平行して検討する。 ●サービス展開の必要要員を新規要求しても通らないケースが多いのではないだろうか。他業務の省力化（広島大学図書館の場合、相互利用案内カウンター消滅と、個室鍵貸出機の導入）や抱き合わせの学生マンパワー要求などをカウンター運用が決まる空間設計時から検討する必要がある。 ●協調型学習空間を広く取れる場合、据え置き端末の無い部分とある部分両方があるのが望ましい。 広島大学図書館の場合は無理であったが、授業への貸出し可能空間（端末無がベスト、授業にはじゃま）と、学年進行していない学生（持ち込みパソコン未持参学生多し）たちがパソコンをめぐってグループで話しながら課題解決できるように両方を用意することよい。 ●他組織とのコラボレーションは図書館には都合の悪い点も生じる点は予め覚悟して臨む 空間内にスタッフがいるのである程度管理が行き届くと思われたので「飲み物をとることはOK」を検討したが、学内端末利用原則から禁止となった。ただグループスペース（端末室の位置づけ）への入室認証については運用しないよう交渉して実現を勝ち取った。他組織とのコラボレーションは双方の妥協点を見出しながら運用しなくてはならない側面が存在する。なおすぐ近くにカフェができたばかりであったため館内設置は計画段階当初から除外された。 ● 端末稼働状況一覧モニタを入口付近に設置すると便利 （特に複数階展開の場合）である。 ●今後・課題 * 教職課程学生の利用が多い西図書館のB1BLA展開 * 広島大学はコンテンツ提供と学習内容にそった人的支援が弱かったが、ライティングセンター展開が実現した今、 授業関連情報コンテンツ構築の検討時期が来た と思われる。	

設 問 項 目	大学名／調査館	38. LCの自己評価について：LCの設備面(設備)に対する自己評価(期待とは違った点)	39. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待どおりだった点)	40. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待とは違った点)	41. LCの自己評価について：LC利用数と自己評価等	42. LCの自己評価について：人的支援の利用数と自己評価等	43. LCの自己評価について：PC利用数と自己評価等	44. LCの自己評価について：コンテンツの利用数と自己評価等	45. LCの自己評価：LCに必要と思われる設備・支援等	57. その他 LC整備や活動での成果、ノウハウ、苦勞、記載できなかった事項、今後の展開予定(計画を含む)等
12	九州大学 中央図書館	*プロジェクトの貸出をしているが、利用されていない。	*LCとそれ以外(参考図書室外)のエリアのゾーニング。 *静謐なスペースが騒がしくなることはなく、学生は上手く使い分けている。	* (期待していたわけではないが、) 元々書架が並んでいたところを改修したため、風通しが悪く、空気がこもって暑い。	*授業期/試験期は常になぎわっており、ほぼ席が埋まっている印象。 *設置当初は、ホワイトボードを衝立にして一人で勉強している学生が多かったが、少しずつグループでの利用が浸透し、2年目ころからは、活発に議論している姿が多く見られ、想定通り有効活用されている。		*PCを使いながらグループで議論しているケースが多い。 *会話OKかつ1台に椅子2席設置していることで、そのような使い方を促していると思われる。		*観察によると、グループ学習の際には、学生自身が、このスペースは自分たちが主体的に使ってよい場であることを感じられることが重要であると考え。そのためには、居心地の良さやゆるやかな運用なども重要な要素であると考え。	*設置当初は、職員がミーティングで使うなど使い方の見本を示すことで、学生たちも次第に声を出して使うようになった。 *LCを利用している学生にヒアリングすると、他のグループが活発に議論をしている様子が刺激になる、という意見が多い。互いに刺激を受け合う場になっているようである。 *「就活支援学生団体による就活相談ブース」(就職の決まった先輩が、これから就活を始める後輩の相談にのるもの)は、主催の学生が、自分が就活を始める際にLCで他の就活生に声をかけて就活のきっかけをつかんだという経験から、ぜひこの場所でやりたい、という申し入れにより実現した。「つなぐ」場としての機能も果たしていると考えている。 *LCが能動的学修の場として有効活用されるためには、学生自身が、このスペースは自分たちが主体的に使ってよい場であることを感じられることが重要であると考え。そのためには、居心地の良さやゆるやかな運用なども重要な要素であると考え。
	九州大学 嘸鳴天空広場	*清掃のコストがかかる(利用が多いため汚れやすい)	*講義棟の中心・最上階にあり、便利で快適な空間となっている。	*空調集中管理のため、温度設定等の微調整ができない。	*2012年度入室者：153,394人(開室173日) *1日2,000名を超える時もあり、かなり利用されているが、座席数に限りがあるためサービス対象(約5,000名)をカバーできていない。	*2012年度レファレンス件数：1,061件 *図書館サービス以外の質問が大半を占め、1名体制で可能な範囲で対応している。				
13	国際基督教大学		*思った通りのものができた。狙い通り活用されている。	*ガラス張りにしたため、外気温やPCの熱について、温度制御が難しい。	*据え置きPCの需要の減少、グループ学習の需要増。使われ方が変わってきたためリニューアルした。	*ライティングデスクは、当初周知が十分でなく、100件/年程度の利用。「何をするとどうだろう」との感懐。 *新入生オリエンテーションや授業での紹介ののち、利用増。(現在3年目で、普及してきた、この印象)。	*据え置きPCの需要は低下、貸出PCの人氣は高い。	*据え置きPCが常時埋まっている状態	*大学ごとに必要となる設備は異なるので定義はないが、どの大学でも必須と考える設備は下記の通り。 *人的サポート(PC操作指導、情報検索指導、ライティング指導) *個人学習スペース(静肅な場所) *グループラーニング・スペース(話ができる場所)	*LCの整備にあたり、学生の声を聴くことと学内周知が重要。リニューアルの際に、一部の学生の意見は聞いたが学生全員への調査は行わなかった。 *また、学内への周知が遅くなったことで、数名の学生からクレームが届いた。(リニューアルの目的は何か、リニューアルを計画した時点で学生全員に意見を聞くべきであるなど)
14	同志社大学	*電子黒板が一部の教職希望者らを除けば、十分に使いこなせているとはいいがたい。	*近隣の寺院の主張により高さ制限をされたため、天井が3mとなっている。 *スペース側面にガラスを多用し、閉塞感がないよう工夫したが、もう少し高さがあるほうがよい。将来は天板を抜いて4mにしたい。	*一部の照明が意図とおりのものにできなかった。 *ラーニング・ commonsの設置反対を主張する声への配慮もあって、いつでも教室にリノベーションできるよう設計されたので、照明等が教室仕様であり、せっかくグループでの議論の集中力を高めるような照明施設(ダウンライトの多用)にはなっていない。	*通常1日3500~4000程度 *現状ではMax 5400程度	*受付人数は556人、チームティーチングを含め、インストラクター等による対応970件(12/5現在)	*貸出用PCはほとんど貸し出されている。		*とりあえずは、いまある設備や人的支援のいっそうの活用に努めたい。	*学習者の視点で考える。自分が学習者であること。 *ラーニング・commonsを図書館の視点から論じても、日本の場合はあまり意味がない。運営の一翼を担う一部署に過ぎないことを早く認識し、従来の「資料の提供」「情報源へのアクセス保証」といった情報ロジスティクスの視点から脱却し、具体的に情報を使ってどのような学習が可能なのか、という学習のメカニズムを考慮した情報の取り扱いに意識を注入しないかぎり、図書館から成果はでない。 *ディスカバリーシステムも認知を変えるメカニズムを導く仕掛けとして捉え直したほうがよいのではないか。 *整備は構築についてのノウハウやポイントは、ありすぎて簡略には記述できない。